

【表紙】

【提出書類】	有価証券報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条第1項
【提出先】	近畿財務局長
【提出日】	平成26年6月26日
【事業年度】	第67期（自平成25年4月1日至平成26年3月31日）
【会社名】	特殊電極株式会社
【英訳名】	TOKUDEN CO., LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 高田 芳治
【本店の所在の場所】	兵庫県尼崎市昭和通二丁目2番27号
【電話番号】	(06)6401-9421(代表)
【事務連絡者氏名】	取締役管理本部長 高島 良成
【最寄りの連絡場所】	兵庫県尼崎市昭和通二丁目2番27号
【電話番号】	(06)6401-9421(代表)
【事務連絡者氏名】	取締役管理本部長 高島 良成
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

(1) 連結経営指標等

回次	第63期	第64期	第65期	第66期	第67期
決算年月	平成22年3月	平成23年3月	平成24年3月	平成25年3月	平成26年3月
売上高 (千円)	-	-	7,383,739	7,485,611	7,830,829
経常利益 (千円)	-	-	216,587	150,304	224,248
当期純利益又は当期純損失 (千円)	-	-	76,056	39,049	210,904
包括利益 (千円)	-	-	92,731	98,442	173,404
純資産額 (千円)	-	-	3,362,176	3,404,563	3,171,249
総資産額 (千円)	-	-	6,634,048	6,518,643	6,769,580
1株当たり純資産額 (円)	-	-	419.86	425.15	391.73
1株当たり当期純利益金額 又は1株当たり当期純損失 金額 (円)	-	-	9.50	4.88	26.34
潜在株式調整後1株当たり 当期純利益金額 (円)	-	-	-	-	-
自己資本比率 (%)	-	-	50.7	52.2	46.3
自己資本利益率 (%)	-	-	2.3	1.2	-
株価収益率 (倍)	-	-	18.43	39.34	-
営業活動によるキャッ シュ・フロー (千円)	-	-	2,616	248,868	102,400
投資活動によるキャッ シュ・フロー (千円)	-	-	250,393	59,465	126,667
財務活動によるキャッ シュ・フロー (千円)	-	-	124,689	83,460	81,495
現金及び現金同等物の期末 残高 (千円)	-	-	1,354,397	1,462,482	1,356,053
従業員数 (人)	-	-	241	248	250
(外、契約従業員及び嘱託 従業員数)	(-)	(-)	(52)	(46)	(49)

(注) 1. 第65期より連結財務諸表を作成しているため、第64期以前については記載していません。

2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

3. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載していません。

4. 第67期の自己資本利益率及び株価収益率については、当期純損失を計上しているため記載していません。

5. 従業員数欄の(外書)は、契約従業員及び嘱託従業員数の年間平均雇用者数であります。

(2) 提出会社の経営指標等

回次	第63期	第64期	第65期	第66期	第67期
決算年月	平成22年 3月	平成23年 3月	平成24年 3月	平成25年 3月	平成26年 3月
売上高 (千円)	6,521,043	7,255,226	7,388,890	7,466,772	7,774,945
経常利益 (千円)	4,341	186,770	266,197	233,208	330,244
当期純利益又は当期純損失 (千円)	29,390	55,809	125,666	121,666	230,454
持分法を適用した場合の投資利益 (千円)	-	-	-	-	-
資本金 (千円)	484,812	484,812	484,812	484,812	484,812
発行済株式総数 (千株)	8,010	8,010	8,010	8,010	8,010
純資産額 (千円)	3,332,009	3,325,858	3,393,177	3,462,171	3,180,578
総資産額 (千円)	6,256,384	6,553,478	6,655,815	6,557,847	6,695,889
1株当たり純資産額 (円)	415.98	415.22	423.73	432.34	397.18
1株当たり配当額 (円)	7.00	7.00	7.00	7.00	7.00
(1株当たり中間配当額)	(3.50)	(3.50)	(3.50)	(3.50)	(3.50)
1株当たり当期純利益金額又は1株当たり当期純損失金額 (円)	3.67	6.97	15.69	15.19	28.78
潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額 (円)	-	-	-	-	-
自己資本比率 (%)	53.3	50.7	51.0	52.8	47.5
自己資本利益率 (%)	-	1.7	3.7	3.5	-
株価収益率 (倍)	-	26.55	11.15	12.64	-
配当性向 (%)	-	100.5	44.6	46.1	-
営業活動によるキャッシュ・フロー (千円)	393,266	241,781	-	-	-
投資活動によるキャッシュ・フロー (千円)	18,921	29,161	-	-	-
財務活動によるキャッシュ・フロー (千円)	177,047	145,446	-	-	-
現金及び現金同等物の期末残高 (千円)	1,375,282	1,733,349	-	-	-
従業員数 (人)	236	233	231	230	229
(外、契約従業員及び嘱託従業員数)	(26)	(41)	(52)	(46)	(46)

(注) 1. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2. 第65期より連結財務諸表を作成しているため、第65期以後の持分法を適用した場合の投資利益、営業活動によるキャッシュ・フロー、投資活動によるキャッシュ・フロー、財務活動によるキャッシュ・フロー及び現金及び現金同等物の期末残高は記載しておりません。なお、第64期以前については持分法を適用すべき関連会社はありませんので、持分法を適用した場合の投資利益については記載しておりません。

3. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

4. 第63期及び第67期の自己資本利益率及び株価収益率並びに配当性向については、当期純損失を計上しているため記載しておりません。

5. 従業員数欄の(外書)は、契約従業員及び嘱託従業員数の年間平均雇用者数であります。

2【沿革】

年月	事項
昭和8年2月	特殊溶接棒製作所として兵庫県尼崎市昭通で創業 特殊アーク溶接棒及びガス溶接棒の製造販売を開始
昭和25年1月	商号を変更し特殊電極株式会社として設立
昭和25年4月	九州出張所（現九州営業所）を福岡県八幡市（平成11年3月福岡県飯塚市に移転）に設置
昭和26年1月	東京出張所（現東京営業所）を東京都大田区に設置
昭和27年1月	北海道出張所（現北海道営業所）を北海道室蘭市に設置
昭和28年1月	本社工場を兵庫県尼崎市難波本町（現東難波町）に移設し、名称を尼崎工場に変更
昭和30年2月	溶接棒の製造販売に加え、溶接工事を開始
昭和31年6月	名古屋出張所（現名古屋営業所）を愛知県名古屋市に設置
昭和32年1月	広島出張所（現広島営業所）を広島県広島市に設置
昭和35年3月	尼崎工場内に研究所（現研究開発部）を設置
昭和36年7月	沼津駐在所（現静岡営業所）を静岡県沼津市に設置
昭和36年11月	姫路駐在所（現姫路営業所）を兵庫県姫路市に設置
昭和40年9月	横浜営業所（現京浜営業所）を神奈川県横浜市（平成9年5月神奈川県川崎市に移転）に設置
昭和41年4月	福山出張所（現福山営業所）を広島県福山市に設置 姫路工場を兵庫県姫路市に設置
昭和44年1月	倉敷駐在所（現岡山営業所）を岡山県倉敷市に設置
昭和44年4月	溶接棒製造部門を分離し、福岡県飯塚市にトクデン溶接棒株式会社を設立（当社出資比率27.4%）、平成2年4月解散 千葉出張所（現千葉営業所）を千葉県千葉市に、宇都宮駐在所（現宇都宮営業所）を栃木県宇都宮市に設置
昭和45年4月	名古屋工場（現東海営業所）を愛知県東海市に設置
昭和45年6月	君津駐在所（現君津営業所）を千葉県木更津市（平成11年2月千葉県君津市に移転）に設置
昭和46年4月	関東地区の工事部門を分離し、東京都大田区に東京トクデン工事株式会社を設置（当社出資比率31.75%）、昭和55年10月解散
昭和47年1月	九州工場を福岡県飯塚市に設置
昭和51年4月	北海道工場（現イタンキ工場）を北海道室蘭市に設置 鹿島出張所（現鹿島営業所）を千葉県佐原市（平成5年4月茨城県神栖市に移転・平成23年5月茨城県鹿嶋市に移転）に設置
昭和51年8月	福岡フェザントカントリークラブ（福岡県田川郡川崎町）開場 （昭和54年8月に営業譲渡）
昭和52年11月	会社更生手続開始を申立
昭和53年4月	会社更生手続開始決定
昭和55年2月	更生計画案認可
昭和55年7月	引野工場を広島県福山市に設置
昭和56年1月	フラックス入りワイヤの製造販売を開始
昭和56年5月	P T A溶接装置の製造販売を開始
昭和57年4月	長崎出張所（現西九州営業所）を長崎県長崎市に設置
昭和58年9月	君津工場を千葉県木更津市（平成11年2月千葉県君津市に移転）に設置
昭和61年12月	トッププレートの製造販売を開始
昭和62年8月	現地加工工事の受注を開始
昭和62年11月	姫路トッププレート工場を兵庫県姫路市に設置
平成6年11月	名古屋工場を愛知県豊田市（平成21年6月愛知県名古屋市に移転）に設置、平成24年5月閉鎖
平成7年3月	会社更生手続終結の決定
平成8年12月	新室蘭工場（現室蘭工場）を北海道室蘭市に設置
平成13年1月	経済産業大臣認定第50022号によりJIS Z 3323（ステンレス鋼用アーク溶接フラックス入りワイヤ）認定表示の許可取得
平成15年3月	環境関連装置の製造販売を開始
平成16年8月	財団法人日本規格協会（現一般財団法人日本規格協会）にISO 9001の認証を受け登録（登録番号JSAQ 2006）
平成18年6月	ジャスダック証券取引所（現東京証券取引所JASDAQ（スタンダード））に株式上場
平成19年1月	白山工場を石川県白山市に設置
平成20年7月	財団法人日本品質保証機構（現一般財団法人日本品質保証機構）から新JISマーク表示認証（認証番号JQ0508050）を取得
平成22年4月	ジャスダック証券取引所と大阪証券取引所の合併に伴い、大阪証券取引所JASDAQ（現東京証券取引所JASDAQ（スタンダード））に上場
平成23年2月	中国子会社（天津特電金属製品有限公司）が企業法人営業許可証を取得
平成24年10月	一般財団法人日本規格協会にISO 14001の認証を受け登録（登録番号JSAE1536・5事業所）
平成25年7月	大阪証券取引所と東京証券取引所の合併に伴い、東京証券取引所JASDAQ（スタンダード）に上場
平成25年12月	タイ国バンコク市に連結子会社（TOKUDEN TOPAL CO., LTD.）を設立

3【事業の内容】

当社グループは、溶接材料の開発力及び溶接総合技術を活かしたメーカーとして、溶接工事の施工、溶接材料、特殊溶接を施した鋼板、溶接装置、溶接手法及びその技術から派生した応用商品を営業品目として取扱っております。

溶接技術は、各業界における建造物、設備、装置、機械部品等の製作において不可欠な加工技術の一つですが、当社はその溶接分野におきましても特殊な溶接技術を専門に開発を進め、特に「表面改質技術」に属する肉盛溶接技術（機械部品等の表面に金属を盛り上げる溶接方法）並びにそれに用いる肉盛溶接材料を中心に事業を展開しております。

なお、次の2部門は「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等（1）連結財務諸表 注記事項」に掲げるセグメントの区分と同一であります。

(1) 工事施工

溶接技術、溶接加工は一般消費者へわたる製品・商品の組立手段として用いられる場合と、各種産業における生産設備の加工・組立手段として用いられる場合がありますが、当社グループは、主に各種産業の下支えとして設備、装置の加工・組立の溶接施工を行っております。

当社グループは、基盤素材産業である製鉄、石油化学、セメントから家電、自動車、食品産業といった身近な製造品まであらゆる業種の製造設備に関わる溶接を行っておりますが、その中でも、鉄鋼・非鉄金属業界の設備メンテナンスに関する溶接を主力としております。

当社グループの溶接施工の特徴の一つは『特殊材料溶接』であります。

一般に、「鉄」と言われているものは軟鋼を指し、金属製品のほとんどがこの材料でできておりますが、当社グループの溶接施工は、軟鋼ではなく、耐腐食性を求めるステンレス材、チタン材、耐熱性を求めるニッケル合金、硬さを求める耐摩耗材料、軽さを求めるアルミ材、チタン材、あるいは強さを求める高張力材など軟鋼以外の特殊材料であり、これらを対象とした溶接を行っております。

もう一つの特徴は『耐摩耗肉盛』であります。各種産業において物を動かす工程では、多かれ少なかれ摩耗が生じます。材料と装置あるいは装置間において接触が発生する工程では、それらの表面は必ず摩耗することとなりますので、使用限界を超えて摩耗した部分の再生手段として肉盛溶接という溶接技術をとっております。

当社グループは、この肉盛溶接技術を基盤とした工事施工を行っております。前述の軟鋼より少し硬い材料からダイヤモンドに次ぐ硬さまで、幅広く溶接材料を準備し、顧客の要望に対応しております。

適用業種の例をあげると、製鉄業では、鉄鉱石、石炭等原材料の移動部、高炉周り、圧延から最終製品までといった耐摩耗性を求められる設備機器など数多くあります。セメント工場では石灰石、石炭等原材料の移動部、キルン周辺（原料を焼成してセメントにする設備）から最終製品まで、また、粉碎工程にも耐摩耗性が求められております。

また、この他にトッププレート（耐摩耗用クラッド鋼板）を用いた工事も施工いたしております。トッププレートとは、軟鋼に超耐摩耗合金を特殊肉盛溶接した鋼板の当社グループの製品名であり、当社の姫路トッププレート工場及び室蘭工場、並びに連結子会社天津特電金属製品有限公司の天津工場で製造しております。

特徴として、凹凸がほとんど無い表面で、しかも高硬度を有するにも拘わらず、割れ及び歪みが少ないといった性質を有しております。表面が滑らかで耐摩耗性に優れているといった点から、製鉄所やセメント工場などの投入シュート等の諸設備において、コークス・原料・土石などによる研削摩耗を受ける部分・部品等に使用されております。

(2) 溶接材料

当社グループの特殊溶接の特徴は「(1) 工事施工」において前述したとおりですが、上記工事施工において使用される特殊溶接用材料の仕入・製造・販売も手掛けております。

当社の溶接材料を使用し肉盛溶接することにより、設備部品の延命対策ともなり、設備部品の新設時あるいは補修・再生時に使用されております。

主な製商品といたしまして、当社尼崎工場において生産しておりますフラックス入りワイヤ（溶接の際に、溶接金属の酸化・窒化を防止するための保護、あるいは溶接金属への合金添加等を目的として用いる粉末材料を内蔵したパイプ状のワイヤ）、当社技術標準に基づき製造委託しております被覆アーク溶接棒（フラックス入りワイヤと同様の目的で用いる棒状の溶接材料）、各種溶接用線材、粉末材等を取扱っております。

(3) その他

上記工事施工及び溶接材料の他に、下記についても取り扱っております。

a) アルミダイカストマシーン用部品の販売

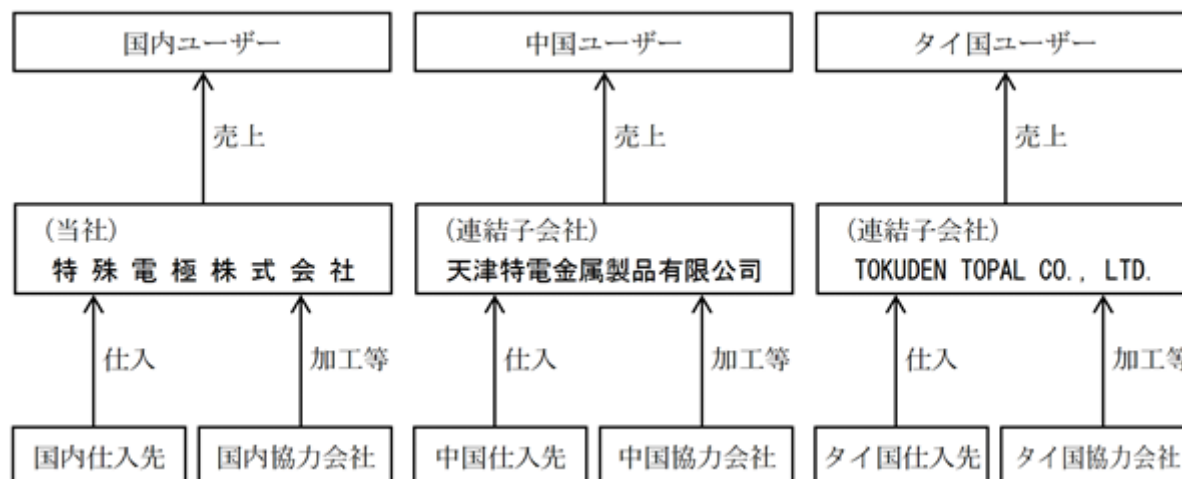
主に自動車産業向けに、アルミダイカストマシーン用部品（プランジャースリーブ、スプルブッシュ、プランジャーチップ、ラドル等）の販売を行っております。

b) 各種産業用機械装置等の製造・販売

自動車部材の鑄造過程における臭気を吸収・浄化する電気分解脱臭装置、鑄造された自動車パーツの強制冷却装置、省エネ対策を目的としたアーク式取鍋加熱装置といった環境関連装置の製造・販売を行っております。

[事業系統図]

事業の系統図は次のとおりであります。



4 【関係会社の状況】

名称	住所	セグメントの名称	資本金	主要な事業の内容	議決権の所有割合又は被所有割合(%)	関係内容
(連結子会社) 天津特電金属製品有限公司 (注) 1	中国 天津市	工事施工	480 百万 円	トッププレート の製造販売	100	当社の技術指導により、中国でトッププレートの製造販売等を行う。 運転資金の貸付。
TOKUDEN TOPAL CO., LTD. (注) 1 . 2	タイ国 バンコク市	その他	22 百万 バーツ	ダイカストマ シーン用部品 (スリーブ・ チップ等)の 製造販売及び 溶接サービス 事業	49	当社の技術指導により、タイ国でダイカストマシーン用部品の製造販売等を行う。

(注) 1 . 特定子会社に該当しております。

2 . 実質的に判断して連結子会社としております。

5【従業員の状況】

(1) 連結会社の状況

(平成26年3月31日現在)

セグメントの名称	従業員数(人)
工事施工	168(43)
溶接材料	39(3)
報告セグメント計	207(46)
その他	14(1)
全社(共通)	29(2)
合計	250(49)

(注) 1. 従業員数は、就業人員(当社グループからグループ外への出向者を除き、グループ外から当社グループへの出向者を含む。)であり、契約従業員及び嘱託従業員は、年間の平均人員を()内に外数で記載しております。

2. 全社(共通)として記載されている従業員数は、主として管理部門に所属しているものであります。

(2) 提出会社の状況

(平成26年3月31日現在)

従業員数(人)	平均年齢(歳)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(千円)
229(46)	40.2	14.1	5,115

セグメントの名称	従業員数(人)
工事施工	151(40)
溶接材料	39(3)
報告セグメント計	190(43)
その他	10(1)
全社(共通)	29(2)
合計	229(46)

(注) 1. 従業員数は、就業人員(当社から他社への出向者を除き、他社から当社への出向者を含む。)であり、契約従業員及び嘱託従業員は、年間の平均人員を()内に外数で記載しております。

2. 平均年間給与は、賞与及び基準外賃金を含んでおります。

3. 全社(共通)として記載されている従業員数は、主として管理部門に所属しているものであります。

(3) 労働組合の状況

当社労働組合は、特殊電極労働組合と称し、平成26年3月31日現在における組合員数は176人で上部団体のJ A M (Japanese Association of Metal, Machinery and Manufacturing Workers) に加盟しております。

なお、労使関係は安定しております。

第2【事業の状況】

1【業績等の概要】

(1) 業績

当連結会計年度におけるわが国経済は、政府による金融・財政政策などにより、円安基調の継続や株高が進行し、緩やかな回復基調で進行いたしました。欧州経済の長期停滞や新興国の経済成長の鈍化により、依然として先行き不透明な状況で推移いたしました。

このような状況の中にあつて当社グループは、営業部門におきましては、受注拡大のため営業活動効率の改善と既存得意先の深耕に全力を尽くし、業績の向上に鋭意努力してまいりました。

生産工場及び工事工場におきましては、安全衛生活動の更なる充実とコスト削減を進め、作業効率の改善を推し進めてまいりました。

また、研究開発などの技術部門におきましては、既存技術の改良や新規技術の開発と実用化に鋭意努力してまいりました。

その結果、当連結会計年度の売上高は7,830百万円（前連結会計年度比4.6%増）となりました。損益面におきましては、営業利益は210百万円（同68.2%増）、経常利益は224百万円（同49.2%増）となりましたが、子会社である天津特電金属製品有限公司のトッププレート製造設備の減損損失の計上により、210百万円（前連結会計年度は39百万円の当期純利益）の当期純損失となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

工事施工

提案型営業活動の強化と営業効率の改善による経費削減を積極的に進め、受注拡大に努めました結果、プラズマ粉体肉盛工事、現地加工工事の受注は減少しましたが、トッププレート工事、連続鋳造ロール工事、アルミダイカスト関連工事、粉碎ミル工事の受注が増加し、売上高は5,521百万円（前連結会計年度比6.0%増）、セグメント利益450百万円（同17.6%増）となりました。

溶接材料

直販体制の優位性を活かした営業活動を更に進め、販売強化に努めました結果、製品においては当社の主力でありますフラックス入りワイヤの売上高は596百万円（前連結会計年度比4.8%増）、また、商品のアーク溶接棒、T I G・M I Gなどの溶接材料の売上高は900百万円（同2.3%増）となり、溶接材料の合計売上高は1,496百万円（同3.3%増）、セグメント利益277百万円（同9.2%増）となりました。

その他

環境関連装置及び自動車関連のアルミダイカストマシーン用部品の販売を推し進めましたが、売上高は812百万円（前連結会計年度比1.9%減）、セグメント利益83百万円（同12.5%増）となりました。

(2) キャッシュ・フロー

当連結会計年度における現金及び現金同等物は、前連結会計年度末に比べ106百万円減少し、1,356百万円となりました。

営業活動によって得られた資金は、前連結会計年度に比べ、146百万円減の102百万円となりました。

投資活動によって使用された資金は、前連結会計年度に比べ、67百万円増の126百万円となりました。

財務活動によって使用された資金は、前連結会計年度に比べ、1百万円減の81百万円となりました。

なお、キャッシュ・フローの詳細については、「第2 事業の状況 7 財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析 (4) 資本の財源及び資金の流動性についての分析 キャッシュ・フロー」に記載しております。

2【生産、受注及び販売の状況】

(1) 生産実績

当連結会計年度における生産実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	生産高(千円)	前年同期比(%)
工事施工	267,061	107.6
溶接材料	543,171	102.8
合計	810,233	104.3

- (注) 1. 金額は製造原価によっており、セグメント間の内部振替前の数値によっております。
 2. 工事施工の数値は、工事材料として使用されるトッププレート(耐摩耗用クラッド鋼板)の生産実績であります。
 3. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

(2) 商品仕入実績

当連結会計年度における商品仕入実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	仕入高(千円)	前年同期比(%)
溶接材料	728,640	106.7
その他	493,402	96.0
合計	1,222,042	102.1

- (注) 1. 金額は仕入価格によっております。
 2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

(3) 受注実績

当連結会計年度における受注実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	受注高(千円)	前年同期比(%)	受注残高(千円)	前年同期比(%)
工事施工	5,615,402	108.3	434,837	127.5

- (注) 1. 金額は販売価格によっております。
 2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

(4) 販売実績

当連結会計年度における販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	販売高(千円)	前年同期比(%)
工事施工	5,521,562	106.0
溶接材料	1,496,824	103.3
その他	812,442	98.1
合計	7,830,829	104.6

- (注) 1. セグメント間の取引については、相殺消去しております。
 2. 主な相手先別の販売実績及び当該販売実績の総販売実績に対する割合

相手先	前連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)		当連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)	
	金額(千円)	割合(%)	金額(千円)	割合(%)
新日鐵住金株式会社	1,091,900	14.6	1,317,445	16.8

3. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

4. 新日本製鐵株式会社と住友金属工業株式会社は、平成24年10月1日付で合併し、新日鐵住金株式会社となりました。上記の新日鐵住金株式会社の販売実績には、平成24年4月1日から平成24年9月30日までの期間の新日本製鐵株式会社としての取引金額を含めております。

3【対処すべき課題】

今後において、企業価値の向上、顧客の拡大、事業領域の確立を実現していくため、以下の重点実施項目を掲げ、経営基盤の強化充実を図ってまいります。

安全第一

安全衛生管理方針のもと、安全衛生活動を最優先して、従業員の安全と健康を確保してまいります。

新技術、新商品開発と売上拡大

新技術、新商品の開発は、当社の重要な戦略であり、開発部門（尼崎研究所・白山研究所・環境技術室）が創出した技術商品を営業部門応援のもと、売上拡大に全力で取り組んでまいります。

既存技術の再構築とレベルアップ

溶接材料においては、主力である既存の製品（MT全鋼種）とその他の商品群のレベルアップに努めてまいります。

工事施工においては、技術の向上と伝承に努めてまいります。

営業活動の効率化と高度化

新商品の売上推進、海外展開等、営業部門においては更なる高度な知識、手段が必要となるため、それに応えるべく営業活動の高度化を進めてまいります。その一環として、自動車部会・溶接材料販売促進部会・鉄鋼部会の部会活動を強力に進めてまいります。

天津特電金属製品有限公司の売上拡大

中国子会社である天津特電金属製品有限公司の売上拡大を図るため、営業面・技術面・管理面におけるバックアップ体制の強化に努めてまいります。

タイ合併会社の基盤確立

海外市場の獲得を目指して、平成25年12月にタイに連結子会社（TOKUDEN TOPAL CO., LTD.）を設立いたしました。同社の経営基盤を確立し、売上の拡大に努めてまいります。

業務のスピードアップとコスト削減

各部門は、日常の業務においてスピード感を持って業務を推進し、更なる効率化を図るとともに、全部署において原価・経費等の具体的な削減への取り組み事項を策定し、全社的なコスト削減を図ってまいります。

内部統制の充実

内部統制システムの確実な実践と有効な内部監査のレベルアップを図ってまいります。

4【事業等のリスク】

有価証券報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項には、以下のようなものがあります。

なお、文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において当社グループが判断したものであります。

取引先メーカーの設備投資動向の影響について

当社グループの売上高に占める販売先上位10社の割合は、平成26年3月期において46.5%となっており、これら上位10社の大半を鉄鋼業及び非鉄金属製造業が占めております。当社グループの業績は、これらの業界をはじめとした顧客の設備投資動向の影響を強く受けることから、当社グループの顧客の設備投資需要が悪化した場合には、工事施工の受注減少、あるいは、受注価格または当社グループ製・商品価格の値下げ要請による同業他社との競合の激化等により、当社グループの業績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

仕入先への依存について

当社グループのブランドにて販売している溶接材料の一部、並びにトッププレートの原材料となる混合粉末の配合及びブレンド加工については、特定の協力会社に対して、当社グループの技術標準に基づき製造委託または加工委託を行っております。

当社グループの当該溶接材料の一部は、昭和55年からニッコー溶材工業株式会社(大阪市)に製造委託を行っており、平成26年3月期の商品仕入高に占める同社からの仕入割合は18.4%となっております。

一方、混合粉末は、平成2年からジャンテック株式会社(東京都中央区)に加工委託を行っており、平成26年3月期の原材料仕入高に占める同社からの仕入割合は47.2%と高い水準にあります。

当社グループは両社との間において、基本契約の他に機密保持に関する覚書等を交わしており、原材料及び商品の安定調達を図るとともに、独自の技術及びノウハウの流出防止に努めております。

しかし何らかの事情により、これらの安定調達に支障が生じたり、あるいは、当社グループ独自の技術やノウハウが第三者に流出した場合には、製造・加工委託の代替先の確保に時間を要し、あるいは、競合商品の新たな市場投入によるシェアの低下等により、当社グループの業績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

協力会社への外注について

当社グループは、機械加工または熱処理加工等、社内の設備や技術では対応が困難な工程、あるいは汎用的な溶接作業等、原価の低減または生産能力の補完に寄与する工程等については外注を活用しております。

当社グループは、外注先の品質管理及び納期管理に努めるとともに、能力の高い外注先の確保・育成に努めておりますが、当社グループの外注先が、必要な技術的・経済的資源を維持できない場合、あるいは、当社グループが適時・適切に有能な外注先を確保・活用できない場合等には、当社グループの業績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

原材料価格の変動について

近年、当社グループ製・商品の原材料価格が上昇しております。これに対処するため、当社グループは顧客に対する販売価格への転嫁の要請、当社グループの生産性向上及びコスト削減等を実施しておりますが、今後、原材料価格が大幅に高騰した場合には、適時・適切に販売価格へ転嫁できる保証はなく、当社グループの業績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

過去の会社更生手続に伴うゴルフ場入会預託金の弁済債務(「長期預り金」勘定)について

過去に当社がゴルフ場経営を開始した際に募集した『福岡フェザントカントリークラブ』(現在の経営は株式会社アコーディアA H 12)のゴルフ場入会預託金に対する当社の弁済債務を「長期預り金」として貸借対照表に計上しており、その残高は、平成26年3月期末現在327百万円となっております。

当社は現在ゴルフ場の運営を行っておりませんが、当該ゴルフ場入会預託金の弁済債務が残っている理由は、過去における当社の会社更生手続に関連するものであります。

現在の経営先である株式会社アコーディアA H 12が当該ゴルフ場の営業を断念した場合には、弁済債務の支払が一時的に集中して、当社の財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

5【経営上の重要な契約等】

該当事項はありません。

6【研究開発活動】

当社グループは、多様化された顧客ニーズに対応するため、溶接技術をキーワードに、地球環境、作業環境へ配慮した製品、商品、装置の研究開発を基本コンセプトとして取り組んでおります。

研究開発体制は、開発委員会の統制のもと、尼崎研究所、白山研究所及び環境技術室において推進し、研究開発スタッフは21名で、これは総従業員の約8%に当たっております。

当連結会計年度における各セグメント別の主な開発テーマ、研究開発状況は次のとおりであります。また、当連結会計年度における各セグメント別の研究開発費は、 工事施工関係20百万円、 溶接材料関係15百万円、 その他21百万円であり、総額は57百万円となっております。

工事施工関係

研究・開発テーマ	研究・開発状況
トッププレート施工法の開発	環境負荷低減に配慮した施工法の開発に取り組んでおります。今後は、従来品に比べて耐食性を向上させた製品の開発を進めてまいります。
粉碎用刃物製作の施工法の開発	性能での優位性が確認され商品化されましたが、更なるコスト削減に向けてのプロパー化が完了し、他社でのオンラインテストも継続中でありまして。今後は、他種の粉碎用刃物の施工法開発を進めてまいります。

溶接材料関係

研究・開発テーマ	研究・開発状況
金型用溶接材料の開発	溶融アルミに対する耐溶損性、耐ヒートクラック性、窒化性に優れた溶接材料の開発が完了しました。今後は、切削性に優れた材料開発を進めてまいります。
MTワイヤ改良・開発	溶接作業性、環境性に優れた軟鋼系用フラックス入りワイヤの開発に取り組んでおります。今後は、更にコスト低減に向けた開発を進めてまいります。
新溶接材料の開発	樹脂業界、自動車業界をターゲットに、高荷重でのカジリ、摩耗、焼き付きを低減できる新材料の開発に取り組んでおります。

その他

研究・開発テーマ	研究・開発状況
簡易脱亜鉛装置の開発	アーク式脱亜鉛装置の脱亜鉛処理における目標値（量、時間、能力、コスト）を全て達成できました。今後は、マンガンの除去を同時に行う基礎技術の確立を進めてまいります。
電気分解脱臭装置の開発	商品化に向けての開発は完了しました。今後は、更なる能力向上のための開発と設計根拠の確立、さらに他分野への応用開発を進めてまいります。
取鍋予熱・保温装置の開発	平成25年度「省エネ大賞」資源エネルギー庁長官賞を受賞し、販売を開始しました。今後は、電極消耗量低減の開発を進め、更に他種の取鍋、アルミ用取鍋への応用展開の開発を進めてまいります。
金型予熱装置の開発	低圧鑄造機金型の予熱装置におけるヒーターボックス設置自動化の設計、開発が完了しました。今後は、加熱能力を向上させるための独自の加熱源の開発を進めてまいります。

7【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 重要な会計方針及び見積り

当社グループの当連結財務諸表は、わが国において一般に公正妥当と認められる会計基準に基づき作成しております。この連結財務諸表の作成にあたって、資産、負債、損益の計上金額ならびに関連する偶発事象の見積りと判断が必要となります。当社グループは、過去の実績や状況に応じ合理的だと考えられる様々な要因に基づき、見積り及び判断を行っておりますが、実際の結果は見積り特有の不確実性があるため、これらの見積りと異なる場合があります。

(2) 財政状態の分析

流動資産

当連結会計年度末における流動資産残高は5,253百万円となり、前連結会計年度末に比べて404百万円増加しました。これは、現金及び預金106百万円の減少がありましたが、受取手形及び売掛金439百万円、半成品51百万円の増加が主な要因です。

固定資産

当連結会計年度末における固定資産残高は1,516百万円となり、前連結会計年度末に比べて153百万円減少しました。これは、無形固定資産53百万円の増加がありましたが、機械装置及び運搬具110百万円、建設仮勘定100百万円の減少が主な要因です。

流動負債

当連結会計年度末における流動負債残高は2,693百万円となり、前連結会計年度末に比べて401百万円増加しました。これは、短期借入金50百万円の減少がありましたが、支払手形及び買掛金310百万円、未払法人税等90百万円、賞与引当金40百万円の増加が主な要因です。

固定負債

当連結会計年度末における固定負債残高は905百万円となり、前連結会計年度末に比べて82百万円増加しました。これは、退職給付に関する会計基準の改正に伴い、退職給付引当金406百万円減少の一方で、退職給付に係る負債474百万円の増加が主な要因です。

純資産

当連結会計年度末における純資産残高は3,171百万円となり、前連結会計年度末に比べて233百万円減少しました。これは、為替換算調整勘定35百万円、少数株主持分34百万円の増加がありましたが、利益剰余金266百万円の減少、退職給付に係る調整累計額40百万円の計上が主な要因です。

(3) 経営成績の分析

当連結会計年度の業績につきましては、営業部門におきましては、受注拡大のため営業活動効率の改善と既存得意先の深耕に全力を尽くし、業績の向上に鋭意努力してまいりました。

生産工場及び工事工場におきましては、安全衛生活動の更なる充実とコスト削減を進め、作業効率の改善を推し進めてまいりました。

また、研究開発などの技術部門におきましては、既存技術の改良や新規技術の開発と実用化に鋭意努力してまいりました。

その結果、当連結会計年度の売上高は7,830百万円（前連結会計年度比345百万円の増加）となりました。損益面におきましては、売上原価は5,818百万円（前連結会計年度比174百万円の増加）、販売費及び一般管理費は1,802百万円（前連結会計年度比85百万円の増加）となりました。

これにより、営業利益は210百万円（前連結会計年度比85百万円の増加）となりました。

営業外損益では、営業外収益が雇用安定助成金等により21百万円（前連結会計年度比11百万円の減少）、営業外費用が7百万円（前連結会計年度比0百万円の減少）となりました。

以上の結果、経常利益は224百万円（前連結会計年度比73百万円の増加）となりました。

特別損益では、子会社である天津特電金属製品有限公司のトッププレート製造設備等の減損損失の計上により、特別損失が289万円（前連結会計年度比285百万円の増加）となりました。

これらにより、当期純損失は210百万円（前連結会計年度は39百万円の当期純利益）となりました。

(4) 資本の財源及び資金の流動性についての分析

キャッシュ・フロー

当連結会計年度末における現金及び現金同等物は、1,356百万円となりました。各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は、次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローにつきましては、税金等調整前当期純損失64百万円に売上債権の増加438百万円、たな卸資産の増加47百万円、法人税等の支払額81百万円、長期預り金の返還による支払額26百万円などの資金減少要因がありましたが、減価償却費の計上151百万円、賞与引当金の増加40百万円、減損損失の計上287百万円、仕入債務の増加291百万円などがあり、102百万円の収入（前連結会計年度は248百万円の収入）となりました。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローにつきましては、有形固定資産の取得による支出117百万円、無形固定資産の取得による支出13百万円などがあり、126百万円の支出（前連結会計年度は59百万円の支出）となりました。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローにつきましては、少数株主からの払込みによる収入36百万円の資金増加要因がありましたが、短期借入金の純減額50百万円、リース債務の返済による支出11百万円、配当金の支払額55百万円などがあり、81百万円の支出（前連結会計年度は83百万円の支出）となりました。

資金需要

当社グループの運転資金需要の主なものは、製品製造のための原材料の購入及び商品の仕入のほか、製造費、販売費及び一般管理費によるものであります。販売費及び一般管理費の主なものは、人件費及び販売諸掛（販売に係る諸費用）であります。

研究開発費は、一般管理費として計上されておりますが、研究開発に係る材料費及び研究員の人件費がその主要な部分を占めております。

なお、運転資金及び設備投資資金については、内部資金または借入金により資金調達することとしております。

第3【設備の状況】

1【設備投資等の概要】

当社グループでは、技術革新や長期的な受注増に対応するため、施設設備の増強と改良による工事施工能力の増大、作業能率の改善のために、有形固定資産164百万円の設備投資を実施しました。

セグメントごとの設備投資の内訳は次のとおりであります。

工事施工においては東海営業所建物46百万円、プラズマ切断加工機24百万円、プラテン加工機15百万円などの設備投資を実施し、123百万円となりました。

溶接材料においては東海営業所建物5百万円など11百万円、その他においては研削盤15百万円など20百万円となりました。

また、本社において、システム開発等ソフトウェアに13百万円の投資を実施しました。

なお、当連結会計年度において重要な設備の除却、売却等はありません。

2【主要な設備の状況】

(1) 提出会社

当社は、国内に8ヶ所の工場（構内工場を除く）と、18ヶ所の営業所等を運営しております。

また、6営業所において構内工場を設けております。

主要な設備は、以下のとおりであります。

（平成26年3月31日現在）

事業所名 （所在地）	セグメント の名称	設備の内容	帳簿価額（千円）					従業員数 （人）
			建物及び 構築物	機械装置及 び運搬具	土地 (面積㎡)	その他	合計	
本社 (兵庫県尼崎市)	-	統括業務施設	13,519	71	68,688 (851.20)	11,178	93,458	25 (1)
尼崎工場 (兵庫県尼崎市)	工事施工 溶接材料 その他	溶接材料生産設備 及び研究開発設備	10,951	54,454	-	2,182	67,588	38 (2)
室蘭工場 (北海道室蘭市)	工事施工	鋼板製造・溶接工 事施工設備	44,035	37,161	55,210 (6,140.00)	2,246	138,653	6 (2)
イタンキ工場 (北海道室蘭市)	工事施工	鋼板開発施設	24,170	1,754	12,000 (1,652.92)	73	37,998	5
君津工場 (千葉県君津市)	工事施工	溶接工事施工設備	35,832	24,223	128,929 (4,725.00)	752	189,737	9 (4)
姫路工場 (兵庫県姫路市)	工事施工	鋼板製造・溶接工 事施工設備	51,002	49,550	5,185 (3,306.00)	44	105,782	16
九州工場 (福岡県飯塚市)	工事施工	溶接工事施工設備	70,775	21,681	121,000 (10,000.00)	427	213,883	6 (1)
引野工場 (広島県福山市)	工事施工	溶接工事施工設備	3,645	8,545	-	-	12,190	4 (1)
白山工場 (石川県白山市)	工事施工	溶接工事施工設備 及び研究開発設備	19,852	22,228	-	1,907	43,988	6
北海道営業所 及び構内工場 (北海道室蘭市)	工事施工 溶接材料	販売及び溶接工事 施工設備	4,307	7,616	-	246	12,170	11 (7)
千葉営業所 及び構内工場 (千葉市中央区)	工事施工 溶接材料	販売及び溶接工事 施工設備	-	3,957	-	7	3,965	6 (4)
京浜営業所 及び構内工場 (川崎市川崎区)	工事施工 溶接材料	販売及び溶接工事 施工設備	160	1,858	-	-	2,018	8 (12)
東海営業所 及び構内工場 (愛知県東海市)	工事施工 溶接材料	販売及び溶接工事 施工設備	52,336	7,704	-	134	60,174	13 (2)
岡山営業所 及び構内工場 (岡山県倉敷市)	工事施工 溶接材料	販売及び溶接工事 施工設備	-	1,867	-	7	1,874	6 (3)
福山営業所 及び構内工場 (広島県福山市)	工事施工 溶接材料	販売及び溶接工事 施工設備	1,389	28,079	-	203	29,672	6 (3)
東京営業所 ほか11営業所	工事施工 溶接材料 その他	販売設備等	9,399	23,827	-	4,569	37,797	64 (4)

事業所名 (所在地)	セグメント の名称	設備の内容	帳簿価額(千円)				従業員数 (人)	
			建物及び 構築物	機械装置及 び運搬具	土地 (面積㎡)	その他		合計
東京社宅	-	従業員社宅施設	12,256	-	17,700 (181.22)	-	29,956	-
名古屋駐車場 (名古屋市名東区)	-	貸駐車場	629	-	36,900 (678.97)	-	37,529	-

(注) 1. 帳簿価額のうち「その他」は、工具、器具及び備品であり、リース資産を含み建設仮勘定は含んでおりません。なお、金額には消費税等を含めておりません。

2. 従業員数の()は、契約従業員及び嘱託従業員数を外書しております。

(2) 在外子会社

平成26年3月31日現在

会社名	事業所名 (所在地)	セグメント の名称	設備の内容	帳簿価額(千円)				従業員数 (人)	
				建物及び 構築物	機械装置及 び運搬具	土地 (面積㎡)	その他		合計
天津特電金属製品 有限公司	天津工場 (中国天津市)	工事施工	鋼板製造設備	-	-	-	-	-	17 (3)
TOKUDEN TOPAL CO., LTD.	本社 (タイ国バンコク市)	その他	ダイカストマ シーン用部品 製造設備	65	14,944	-	663	15,674	4

(注) 1. 帳簿価額のうち「その他」は、工具、器具及び備品であり、建設仮勘定は含んでおりません。なお、金額には消費税等を含めておりません。

2. 従業員数の()は、契約従業員及び嘱託従業員数を外書しております。

3 【設備の新設、除却等の計画】

(1) 重要な設備の新設

当連結会計年度末現在における重要な設備の新設、改修計画はありません。

(2) 重要な設備の除却等

経常的な設備の更新のための除却等を除き、重要な設備の除却等の計画はありません。

第4【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	26,040,000
計	26,040,000

【発行済株式】

種類	事業年度末現在発行数 (株) (平成26年3月31日)	提出日現在発行数(株) (平成26年6月26日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	8,010,000	8,010,000	東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	単元株式数 1,000株
計	8,010,000	8,010,000	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (千株)	発行済株式総 数残高 (千株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額(千円)	資本準備金残 高(千円)
平成18年6月13日 (注)	1,500	8,010	242,812	484,812	242,812	394,812

(注) 有償一般募集(ブックビルディング方式による募集)によるものであります。

発行価格 350円
 引受価額 323.75円
 資本組入額 161.875円
 払込金総額 485,625千円

(6)【所有者別状況】

平成26年3月31日現在

区分	株式の状況(1単元の株式数1,000株)								単元未満株 式の状況 (株)
	政府及び地 方公共団体	金融機関	金融商品取 引業者	その他の法 人	外国法人等		個人その他	計	
					個人以外	個人			
株主数(人)	-	5	9	38	5	-	733	790	-
所有株式数 (単元)	-	439	87	458	6	-	7,016	8,006	4,000
所有株式数の 割合(%)	-	5.48	1.09	5.72	0.08	-	87.63	100.00	-

(注) 自己株式2,094株は、「個人その他」に2単元及び「単元未満株式の状況」に94株を含めて記載しております。

(7) 【大株主の状況】

平成26年3月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%)
特殊電極従業員持株会	兵庫県尼崎市昭和通2-2-27 特殊電極株式会社内	609	7.60
宮田 文夫	兵庫県伊丹市	270	3.37
大野 昌克	兵庫県伊丹市	190	2.37
坂西 啓至	大阪府吹田市	170	2.12
福田 博	大阪府豊中市	168	2.09
坂地 一晃	兵庫県川西市	150	1.87
坂本 浩司	名古屋市名東区	150	1.87
樋口 豪也	岐阜県可児市	150	1.87
株式会社近畿大阪銀行	大阪市中央区城見1-4-27	150	1.87
株式会社みなと銀行	神戸市中央区三宮町2-1-1	150	1.87
計	-	2,157	26.93

(8) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成26年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	2,000	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 8,004,000	8,004	-
単元未満株式	普通株式 4,000	-	-
発行済株式総数	8,010,000	-	-
総株主の議決権	-	8,004	-

【自己株式等】

平成26年3月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義所有 株式数(株)	他人名義所有 株式数(株)	所有株式数の 合計(株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%)
特殊電極株式会社	兵庫県尼崎市 昭和通二丁目 2番27号	2,000	-	2,000	0.02
計	-	2,000	-	2,000	0.02

(注) 株主名簿上は当社名義株式が2,094株あり、当該株式のうち94株は上記「発行済株式」の「単元未満株式」欄に含めております。

(9) 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

2【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 該当事項はありません。

(1)【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(2)【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(3)【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

該当事項はありません。

(4)【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数(株)	処分価額の総額(円)	株式数(株)	処分価額の総額(円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式	-	-	-	-
消却の処分を行った取得自己株式	-	-	-	-
合併、株式交換、会社分割に係る移転を行った取得自己株式	-	-	-	-
その他(-)	-	-	-	-
保有自己株式数	2,094	-	2,094	-

3【配当政策】

当社の株主に対する利益還元につきましては、もっとも重要な経営課題の一つとしてとらえ、今後の事業展開と経営体質の強化のために必要な内部留保等を勘案して、安定した配当を継続して実施していくことを基本方針としております。

当社は、中間配当と期末配当の年2回の剰余金の配当を行うことを基本方針としております。

これらの剰余金の配当の決定機関は、期末配当については株主総会、中間配当については取締役会であります。

当事業年度の配当につきましては、上記の方針に基づき、1株当たり7円(中間配当3円50銭・期末配当3円50銭)を実施することを決定しました。

内部留保金につきましては、今後予想される経営環境の変化に対応すべく、今まで以上にコスト競争力を高め、市場ニーズに応える技術・製造開発体制を強化し、更には、グローバル戦略の展開を図るために有効投資してまいりたいと考えております。

当社は、「取締役会の決議により、毎年9月30日を基準日として、中間配当を行うことができる。」旨を定款に定めております。

なお、当事業年度に係る剰余金の配当は以下のとおりであります。

決議年月日	配当金の総額(千円)	1株当たり配当額(円)
平成25年10月24日 取締役会決議	28,027	3.5
平成26年6月25日 定時株主総会決議	28,027	3.5

4【株価の推移】

(1)【最近5年間の事業年度別最高・最低株価】

回次	第63期	第64期	第65期	第66期	第67期
決算年月	平成22年3月	平成23年3月	平成24年3月	平成25年3月	平成26年3月
最高(円)	214	228	185	234	244
最低(円)	144	115	151	150	175

(注) 最高・最低株価は、平成22年4月1日より大阪証券取引所(JASDAQ市場)におけるものであり、平成22年10月12日より大阪証券取引所JASDAQ(スタンダード)におけるものであり、平成25年7月16日より東京証券取引所JASDAQ(スタンダード)におけるものであります。それ以前はジャスダック証券取引所におけるものであります。

(2)【最近6月間の月別最高・最低株価】

月別	平成25年10月	平成25年11月	平成25年12月	平成26年1月	平成26年2月	平成26年3月
最高(円)	215	196	210	244	212	214
最低(円)	188	183	188	200	193	201

(注) 最高・最低株価は、東京証券取引所JASDAQ(スタンダード)におけるものであります。

5【役員の状況】

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
取締役社長 (代表取締役)		高田 芳治	昭和25年8月18日生	昭和49年4月 当社入社 平成7年4月 当社福山営業所長 平成15年4月 当社姫路営業所長 平成17年4月 当社姫路工場長 平成20年4月 当社工事部長兼姫路工場長 平成22年4月 当社工事本部長 平成22年6月 当社取締役就任 工事本部長 平成23年4月 当社取締役営業本部長 平成25年6月 当社代表取締役社長就任(現任) (他の法人等の代表状況) 天津特電金属製品有限公司 董事長	(注)4.	70
常務取締役	工事本部長兼 製品・工事担 当	江本 幸朗	昭和21年12月9日生	昭和45年4月 当社入社 平成9年4月 当社研究所長 平成10年4月 当社研究グループ長 平成12年4月 当社工事開発グループ長 平成14年4月 当社尼崎工場長兼技術開発グループ長 平成16年4月 当社生産本部長兼尼崎工場長 平成16年6月 当社取締役就任 生産本部長兼尼崎工場長 平成19年7月 当社取締役生産本部長 平成22年4月 当社取締役製品・工事技術担当 平成24年4月 当社常務取締役就任 製品・工事技術担当 平成25年6月 当社常務取締役工事本部長 平成25年8月 当社常務取締役工事本部長兼製品・工事担当(現任)	(注)4.	73

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
常務取締役	尼崎工場・白山工場担当	吉政 輝男	昭和23年4月10日生	昭和46年4月 当社入社 平成6年4月 当社北海道開発技術室長 平成12年4月 当社新室蘭（現室蘭）工場長 平成15年4月 当社研究開発グループ技術担当グループ長 平成16年4月 当社研究開発部長 平成19年6月 当社取締役就任 研究開発部長 平成19年7月 当社取締役尼崎工場長兼研究開発部長 平成22年4月 当社取締役尼崎工場長 平成22年6月 当社常務取締役就任 尼崎工場長 平成25年4月 当社常務取締役尼崎工場・白山工場担当（現任）	(注)4.	69
取締役	営業本部長	上林 克彦	昭和28年7月5日生	昭和51年4月 大同電設株式会社入社 昭和55年7月 当社入社 平成11年4月 当社北海道営業所長 平成17年4月 当社第三営業部長兼大阪営業所長 平成19年4月 当社第一営業本部長兼第三営業部長 平成19年6月 当社取締役就任 第一営業本部長兼第三営業部長 平成22年4月 当社取締役営業本部長 平成23年4月 当社取締役工事本部長兼トッププレート部長兼工事企画部長 平成24年4月 当社取締役工事本部長兼トッププレート部長 平成25年4月 当社取締役工事本部長 平成25年6月 当社取締役営業本部長（現任）	(注)4.	44
取締役	管理本部長	高島 良成	昭和25年11月24日生	昭和52年4月 山本稔税理士事務所入所 昭和56年4月 石田敏晴税理士事務所入所 昭和60年4月 リード電機株式会社（現株式会社キーエンス）入社 平成7年6月 株式会社月虎入社 平成12年2月 大和冷機工業株式会社入社 平成14年10月 当社入社 平成15年4月 当社経理部長 平成22年4月 当社管理本部長兼経理部長 平成22年6月 当社取締役就任 管理本部長兼経理部長 平成24年4月 当社取締役管理本部長（現任）	(注)4.	15
常勤監査役		北 正己	昭和38年9月20日生	昭和62年4月 株式会社幸福相互銀行入社 平成元年1月 サンワ・等松青木監査法人（現有限責任監査法人トーマツ）入所 平成9年4月 公認会計士登録 平成24年2月 アークレイ株式会社入社 平成25年6月 当社常勤監査役就任（現任）	(注)3.	1

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
監査役		藤田 寛	昭和22年10月14日生	昭和45年4月 当社入社 平成7年4月 当社商品企画部長補佐 平成10年4月 当社工事技術グループ部長補佐 平成11年4月 当社姫路工場長 平成12年4月 当社工事部長兼姫路工場長 平成12年7月 当社工事部長 平成20年4月 当社第二営業本部長付 平成21年6月 当社監査役就任(現任)	(注)3.	53
監査役		瀨田 雄久	昭和43年10月5日生	平成5年4月 司法研修所入所 平成7年4月 大阪弁護士会に弁護士登録 なにわ共同法律事務所(現弁護士 法人なにわ共同法律事務所)入所 平成16年8月 アメリカ合衆国Duke University School of Lawに留学 平成17年8月 シンガポール共和国 Rajah & tann法律事務所にて研修 平成18年3月 ニューヨーク州弁護士登録 平成18年8月 なにわ共同法律事務所(現弁護士 法人なにわ共同法律事務所)復帰 (現任) 平成18年10月 大阪大学法科大学院 非常勤講師 平成23年6月 当社監査役就任(現任) 平成25年4月 大阪大学法科大学院 招聘教授 (現任)	(注)2.	-
計						325

(注)1. 監査役北 正己氏及び瀨田雄久氏は、社外役員(会社法施行規則第2条第3項第5号)に該当する社外監査役(会社法第2条第16号)であります。

2. 平成23年6月28日開催の定時株主総会の終結の時から4年間
3. 平成25年6月26日開催の定時株主総会の終結の時から4年間
4. 平成26年6月25日開催の定時株主総会の終結の時から2年間

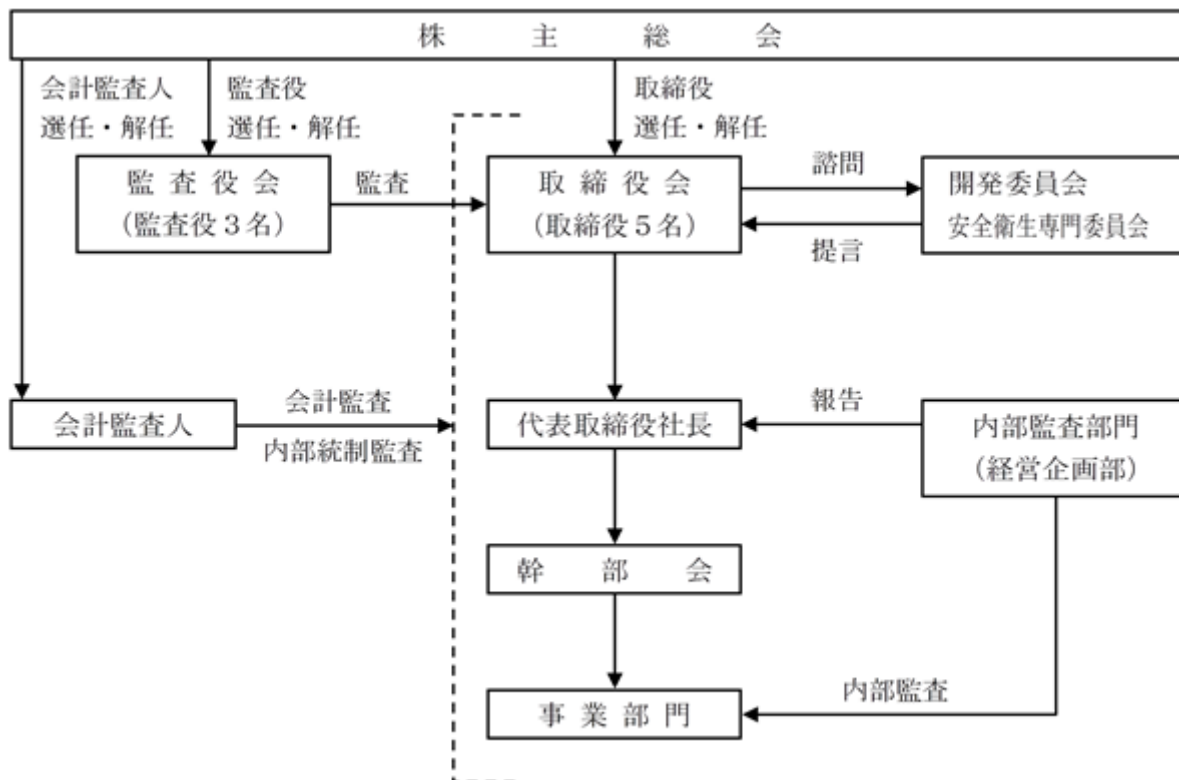
6【コーポレート・ガバナンスの状況等】

(1)【コーポレート・ガバナンスの状況】

企業統治の体制

(1) 企業統治の体制の概要

経営上の意思決定、執行及び監督に係る経営管理組織その他のコーポレート・ガバナンス体制の概要は、次の図のとおりです。



イ．取締役会

取締役会は、取締役5名（すべて社内取締役）で構成され、経営の意思決定と日常業務の執行は密接不可分であるという認識のもと、取締役会を毎月1回定期的に開催し、経営に関する重要事項を決定しております。当事業年度においては取締役会を13回開催いたしました。

なお、主要な事業部門については、取締役が業務執行を統括しております。

ロ．監査役会

監査役会は、監査役3名（社外監査役2名）で構成され、各監査役は株主の負託を受けた独立の機関として取締役の職務執行を監査することにより、企業の健全で持続的な成長を確保し、社会的信頼に応える良質な企業統治体制を確立する責務を遂行しております。監査役会は毎月1回定期的に開催され、当事業年度においては13回開催いたしました。

ハ．幹部会

原則として毎月1回定期的に開催し、取締役会で決定した基本方針に基づいて、全般的な業務執行方針及び計画等の重要な業務の実行に関し協議しております。当事業年度においては10回開催いたしました。

ニ．開発委員会・安全衛生専門委員会

取締役会の諮問機関として位置づけ、開発委員会（年2回開催）は商品の開発及び技術分野の展開等について、安全衛生専門委員会（年3回開催）は全社的な安全組織、安全衛生管理と教育、安全運転管理と教育の充実等について、それぞれ協議しております。

(2) 企業統治の体制を採用する理由

当社のコーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方は、株主、従業員、取引先、社会など様々な利害関係者との関係において、どのような経営管理システムで統治していくかという体制の構築と、経営に対する透明性と経営責任の明確化にあると理解いたしております。

従って、社会から信頼と共感を得られる企業を目指して、コーポレート・ガバナンスが有効に機能するよう体制を整えております。

(3) 内部統制システムの整備の状況

当社は、財務報告の信頼性を確保するために、内部統制の有効かつ効率的な整備・運用及び評価を「財務報告に係る内部統制の整備・運用及び評価の基本方針書」に定めております。

同基本方針書に基づく、財務報告の信頼性を確保するための基本的な方針の設定、方針の展開、内部統制の整備・運用及び評価における全社的な管理体制、手順並びに日程、手続に関する人員及びその編成並びに教育・訓練の方法等により、財務報告に係る内部統制の有効かつ効率的な整備・運用及び評価を行っております。

(4) リスク管理体制の整備の状況

当社は、法令や社会規範の遵守なくして企業の存立はあり得ないとの認識のもと、コンプライアンス体制の構築を経営の最重要課題として位置づけております。

また、製商品、営業、情報、経営等の当社事業を取り巻くリスクにつきましては、当該案件に関するリスクを的確に分析し評価するために、「経営危機管理規程」、「事業継続計画（BCP）」、「天災マニュアル」、「個人情報保護規程」、「インサイダー取引管理規程」、「ITシステム管理規程」、「コンプライアンス・マニュアル」、「機密管理マニュアル」、「反社会的勢力対応マニュアル」等により厳格な運用がなされております。

内部監査及び監査役監査の状況

会社業務の適切な運営と財産の保全及び企業の健全な発展を図ることを目的に、代表取締役社長直轄の内部監査部門（経営企画部）を設置し、内部統制・管理の有効性を観点とした内部監査業務を経営企画部2名及び特命にて指名された職員10名により行っております。当事業年度において、16事業所の内部監査を行いました。

なお、内部監査は、実地監査は当然のこと、是正要求に対する各部門の取組状況及び効果の検証までをフォローすることとし、当社の内部統制システムを支えております。

監査役3名は、監査役会で策定された監査方針及び監査計画に基づき、取締役会をはじめとする重要な会議への出席や業務及び財産の状況調査を通じ、取締役の職務執行を監査しております。

社外監査役北 正己氏は、公認会計士として幅広い専門知識と経験があり、財務及び会計に関する相当程度の知見を有しており、社外監査役濱田雄久氏は、弁護士として幅広い専門知識と高い見識を持ち、法務に関する相当程度の知見を有しております。

なお、監査役会、内部監査部門及び会計監査人とは、相互の連絡をとりながら効果的かつ効率的な監査の実施を行うよう随時情報、意見の交換及び指摘事項の共有化を行い、適正な監査の実施及び問題点、指摘事項の改善状況の確認を行っております。

会計監査の状況

当社の会計監査業務を執行した公認会計士は、有限責任監査法人トーマツの指定有限責任社員・業務執行社員である木村文彦氏、岡本健一郎氏の2名であります。また、当社の会計監査業務に係る補助者は、公認会計士7名、その他4名であります。

社外取締役及び社外監査役

(1) 社外取締役

当社は、社外取締役を選任していません。当社は、経営の意思決定機能と、取締役による業務執行を管理監督する機能を持つ取締役会に対し、監査役3名中の2名を社外監査役とすることで経営への監視機能を強化しています。コーポレート・ガバナンスにおいて、外部からの客観的、中立の経営監視の機能が重要と考えており、社外監査役2名による監査が実施されることにより、外部からの経営監視機能が十分に機能する体制が整っているため、現状の体制としております。

(2) 社外監査役

当社の社外監査役は2名であります。

当社と社外監査役である北 正己氏及び濱田雄久氏との間には、人的関係、資本的關係又は取引關係その他の利害關係はありません。

当社は、社外監査役の経営監査機能への客観性及び中立性の確保に基づく独立性により、取締役会の意思決定、内部統制や内部監査の妥当性に関して、企業統治において果たす機能及び役割が遂行できる体制となっております。

又、当社は、社外監査役を選任するにあたり、独立性に関する基準又は方針を特に定めておりませんが、取締役の法令遵守、経営管理に対する監査に必要な知識と経験を有し、当社経営陣からの独立した立場で職務を執行できる十分な独立性が確保できること、また、一般株主との利益相反が生じるおそれがないことを基本的な考え方として選任しております。

なお、当社は、社外監査役北 正己氏を東京証券取引所の定めに基づく独立役員として指定し、同取引所に届け出ております。

社外監査役北 正己氏は、公認会計士としての経験と見識を有しており、その専門的な見地から、取締役会において、コンプライアンス、内部統制や内部監査の妥当性等について必要な発言を行っております。また、監査役会においては、常勤監査役として業務監査の結果と日常業務上の重要事項の報告及び会計面を中心に問題の提起を行っております。

なお、同氏は、当社の会計監査人である有限責任監査法人トーマツに、過去において在職した経歴がありますが、その在職期間内における当社での監査等の実績はなく、直接利害關係を有するものではないと判断しております。

社外監査役濱田雄久氏は、弁護士としての経験と見識を有しており、その専門的な見地から、取締役会において、取締役会の意思決定、判断の妥当性等について助言・提言を行っております。また、監査役会においては、企業の継続性を重視し、慎重な経営判断が行われるべく意見を述べております。

なお、同氏は、弁護士法人なにわ共同法律事務所に弁護士として所属しており、当社は同事務所と法律顧問契約を締結しておりますが、現在、過去において当社における顧問活動はなく、直接利害關係を有するものではないと判断しております。

又、社外監査役は、監査役会、内部監査部門及び会計監査人と、情報、意見交換など相互連絡を密にして、会社の業務の適正を確保いたしております。

役員報酬等

(1) 役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額(千円)	報酬等の種類別の総額(千円)				対象となる役員の員数(人)
		基本報酬	ストックオプション	賞与	退職慰労金	
取締役	82,062	82,062	-	-	-	7
監査役 (社外監査役を除く)	4,500	4,500	-	-	-	1
社外役員	20,168	15,085	-	-	5,083	3

(注) 1. 当社は社外取締役は選任しておりません。

2. 上記には、平成25年6月26日開催の第66回定時株主総会終結の時をもって退任した社外監査役1名を含んでおります。

3. 取締役の支給額には、使用人兼務取締役の使用人分給与は含まれておりません。

4. 取締役の報酬限度額は、平成4年6月15日開催の第45回定時株主総会において年額120,000千円以内(ただし、使用人分給与は含まない。)と決議いただいております。

5. 監査役の報酬限度額は、平成20年6月26日開催の第61回定時株主総会において年額30,000千円以内と決議いただいております。

(2) 使用人兼務役員の使用人分給与のうち重要なもの

総額(千円)	対象となる役員の員数(人)	内容
34,849	4	本部長職としての給与であります。

(3) 役員の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針の内容及び決定方法

当社の役員の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針は、「役員報酬規程」に定められており、社長その他の役職毎の報酬基準額に基づき、取締役の報酬は株主総会の決議による報酬総額の範囲内において取締役会で承認決定され、監査役の報酬は株主総会の決議による報酬総額の範囲内において監査役の協議により決定されております。

株式の保有状況

(1) 投資株式のうち保有目的が純投資目的以外の目的であるものの銘柄数及び貸借対照表計上額の合計額
 7銘柄 70,446千円

(2) 保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式の保有区分、銘柄、株式数、貸借対照表計上額及び保有目的
 前事業年度

特定投資株式

銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額 (千円)	保有目的
(株)みなと銀行	188,800	30,208	企業間取引の安定強化
(株)りそなホールディングス	25,499	12,443	企業間取引の安定強化
新日鐵住金(株)	27,168	6,384	企業間取引の安定強化
J F Eホールディングス(株)	3,830	6,768	企業間取引の安定強化
(株)上組	3,156	2,761	企業間取引の安定強化
S E Cカーボン(株)	3,150	1,272	企業間取引の安定強化

(注) 非上場株式1銘柄は記載しておりません。

当事業年度

特定投資株式

銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額 (千円)	保有目的
(株)みなと銀行	197,962	35,633	企業間取引の安定強化
(株)りそなホールディングス	25,500	12,724	企業間取引の安定強化
新日鐵住金(株)	31,404	8,855	企業間取引の安定強化
J F Eホールディングス(株)	4,049	7,868	企業間取引の安定強化
(株)上組	3,342	3,352	企業間取引の安定強化
S E Cカーボン(株)	3,150	1,011	企業間取引の安定強化

(注) 非上場株式1銘柄は記載しておりません。

取締役の定数

当社の取締役は10名以内とする旨定款に定めております。

取締役及び監査役選任の決議要件

当社は、取締役及び監査役の選任決議について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨定款に定めております。

また、取締役の選任決議は、累積投票によらないとする旨定款に定めております。

株主総会の特別決議要件

当社は、会社法第309条第2項に定める株主総会の特別決議要件について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨定款に定めております。

これは、株主総会における特別決議の定足数を緩和することにより、株主総会の円滑な運営を行うことを目的とするものであります。

株主総会決議事項を取締役会で決議することができる事項

(1) 自己の株式の取得

当社は、会社法第165条第2項の規定により、取締役会の決議をもって、自己の株式を取得することができる旨を定款に定めております。

これは、経営環境の変化に対応した機動的な資本政策の遂行を可能とするため、市場取引等により自己の株式を取得することを目的とするものであります。

(2) 中間配当

当社は、中間配当について、会社法第454条第5項の規定により、取締役会の決議によって毎年9月30日を基準日として、中間配当を行うことができる旨定款に定めております。

これは、中間配当を取締役会の権限とすることにより、株主への機動的な利益還元を行うことを目的とするためであります。

(2) 【監査報酬の内容等】

【監査公認会計士等に対する報酬の内容】

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬(千円)	非監査業務に基づく報酬(千円)	監査証明業務に基づく報酬(千円)	非監査業務に基づく報酬(千円)
提出会社	29,000	-	29,000	2,300
連結子会社	-	-	-	-
計	29,000	-	29,000	2,300

【その他重要な報酬の内容】

(前連結会計年度)

該当事項はありません。

(当連結会計年度)

該当事項はありません。

【監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容】

(前連結会計年度)

該当事項はありません。

(当連結会計年度)

子会社(天津特電金属製品有限公司)の現状把握に関する助言業務

【監査報酬の決定方針】

方針は特に定めておりません。

第5【経理の状況】

1．連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

(1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和51年大蔵省令第28号。以下「連結財務諸表規則」という。）に基づいて作成しております。

なお、当連結会計年度（平成25年4月1日から平成26年3月31日まで）の連結財務諸表に含まれる比較情報については、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則等の一部を改正する内閣府令」（平成24年9月21日内閣府令第61号）附則第3条第2項により、改正前の連結財務諸表規則に基づいて作成しております。

(2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号。以下「財務諸表等規則」という。）に基づいて作成しております。

なお、当事業年度（平成25年4月1日から平成26年3月31日まで）の財務諸表に含まれる比較情報については、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則等の一部を改正する内閣府令」（平成24年9月21日内閣府令第61号）附則第2条第2項により、改正前の財務諸表等規則に基づいて作成しております。

また、当社は特例財務諸表提出会社に該当し、財務諸表等規則第127条の規定により財務諸表を作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度（平成25年4月1日から平成26年3月31日まで）の連結財務諸表及び事業年度（平成25年4月1日から平成26年3月31日まで）の財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる監査を受けております。

3．連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は、会計基準等の内容を適切に把握し、適正な連結財務諸表等を作成開示することができる体制を整備するため公益財団法人財務会計基準機構へ加入し、会計基準等の新設・改廃に関する情報を適時に収集するとともに、適正な連結財務諸表等を作成するための社内規程、マニュアル等の整備を行っております。

1【連結財務諸表等】

(1)【連結財務諸表】

【連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当連結会計年度 (平成26年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,462,482	1,356,053
受取手形及び売掛金	2,303,393	2,742,441
商品及び製品	544,425	522,331
仕掛品	18,962	28,355
半成工事	1 285,607	1 336,817
原材料及び貯蔵品	81,111	93,773
繰延税金資産	79,108	95,560
その他	73,511	77,724
貸倒引当金	41	41
流動資産合計	4,848,560	5,253,016
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	2 1,201,591	2 1,192,943
減価償却累計額	824,682	838,614
建物及び構築物(純額)	376,908	354,329
機械装置及び運搬具	2,237,594	2,193,465
減価償却累計額	1,817,244	1,883,936
機械装置及び運搬具(純額)	420,350	309,528
土地	2 474,929	2 468,129
建設仮勘定	104,008	3,648
その他	245,164	143,962
減価償却累計額	222,312	119,317
その他(純額)	22,851	24,645
有形固定資産合計	1,399,048	1,160,281
無形固定資産	22,449	75,700
投資その他の資産		
投資有価証券	60,838	70,446
繰延税金資産	119,291	146,567
その他	68,455	63,567
投資その他の資産合計	248,585	280,581
固定資産合計	1,670,083	1,516,563
資産合計	6,518,643	6,769,580

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当連結会計年度 (平成26年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,519,628	1,830,488
短期借入金	2 390,000	2 340,000
未払法人税等	35,553	126,123
賞与引当金	118,599	159,423
工事損失引当金	10,772	12,798
その他	217,329	224,420
流動負債合計	2,291,884	2,693,253
固定負債		
退職給付引当金	406,546	-
退職給付に係る負債	-	474,889
長期預り金	3 351,828	3 327,889
その他	63,821	102,297
固定負債合計	822,196	905,076
負債合計	3,114,080	3,598,330
純資産の部		
株主資本		
資本金	484,812	484,812
資本剰余金	394,812	394,812
利益剰余金	2,452,306	2,185,346
自己株式	379	379
株主資本合計	3,331,551	3,064,591
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,605	3,311
為替換算調整勘定	74,617	109,873
退職給付に係る調整累計額	-	40,802
その他の包括利益累計額合計	73,012	72,382
少数株主持分	-	34,276
純資産合計	3,404,563	3,171,249
負債純資産合計	6,518,643	6,769,580

【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】

【連結損益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)
売上高	7,485,611	7,830,829
売上原価	1 5,643,717	1 5,818,193
売上総利益	1,841,894	2,012,635
販売費及び一般管理費	2, 3 1,716,784	2, 3 1,802,224
営業利益	125,109	210,410
営業外収益		
受取利息	1,520	1,546
受取配当金	1,365	1,620
雇用安定助成金	18,663	5,989
スクラップ売却益	2,196	3,010
駐車場収入	3,001	2,943
その他	6,544	6,675
営業外収益合計	33,291	21,785
営業外費用		
支払利息	3,753	2,464
為替差損	3,315	4,501
駐車場収入原価	1,026	981
営業外費用合計	8,096	7,947
経常利益	150,304	224,248
特別利益		
固定資産売却益	4 227	-
特別利益合計	227	-
特別損失		
固定資産売却損	5 1	-
固定資産除却損	6 3,303	6 1,094
減損損失	-	7 287,911
特別損失合計	3,305	289,006
税金等調整前当期純利益又は税金等調整前当期純損失()	147,226	64,757
法人税、住民税及び事業税	106,755	170,763
法人税等調整額	1,421	22,523
法人税等合計	108,176	148,239
少数株主損益調整前当期純利益又は少数株主損益調整前当期純損失()	39,049	212,997
少数株主損失()	-	2,092
当期純利益又は当期純損失()	39,049	210,904

【連結包括利益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)
少数株主損益調整前当期純利益又は少数株主損益調整前当期純損失()	39,049	212,997
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	3,383	4,917
為替換算調整勘定	56,008	34,675
その他の包括利益合計	1, 2 59,392	1, 2 39,592
包括利益	98,442	173,404
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	98,442	170,731
少数株主に係る包括利益	-	2,673

【連結株主資本等変動計算書】

前連結会計年度（自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日）

（単位：千円）

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	484,812	394,812	2,469,312	379	3,348,557
当期変動額					
剰余金の配当	-	-	56,055	-	56,055
当期純利益	-	-	39,049	-	39,049
自己株式の取得	-	-	-	0	0
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	-	-	-	-	-
当期変動額合計	-	-	17,005	0	17,006
当期末残高	484,812	394,812	2,452,306	379	3,331,551

	その他の包括利益累計額				少数株主持分	純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	為替換算調整勘定	退職給付に係る 調整累計額	その他の包括利 益累計額合計		
当期首残高	4,989	18,608	-	13,619	-	3,362,176
当期変動額						
剰余金の配当	-	-	-	-	-	56,055
当期純利益	-	-	-	-	-	39,049
自己株式の取得	-	-	-	-	-	0
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	3,383	56,008	-	59,392	-	59,392
当期変動額合計	3,383	56,008	-	59,392	-	42,386
当期末残高	1,605	74,617	-	73,012	-	3,404,563

当連結会計年度（自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日）

（単位：千円）

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	484,812	394,812	2,452,306	379	3,331,551
当期変動額					
剰余金の配当	-	-	56,055	-	56,055
当期純損失（ ）	-	-	210,904	-	210,904
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	-	-	-	-	-
当期変動額合計	-	-	266,959	-	266,959
当期末残高	484,812	394,812	2,185,346	379	3,064,591

	その他の包括利益累計額				少数株主持分	純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	為替換算調整勘定	退職給付に係る 調整累計額	その他の包括利 益累計額合計		
当期首残高	1,605	74,617	-	73,012	-	3,404,563
当期変動額						
剰余金の配当	-	-	-	-	-	56,055
当期純損失（ ）	-	-	-	-	-	210,904
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	4,917	35,255	40,802	629	34,276	33,646
当期変動額合計	4,917	35,255	40,802	629	34,276	233,313
当期末残高	3,311	109,873	40,802	72,382	34,276	3,171,249

【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益又は税金等調整前当期純損失()	147,226	64,757
減価償却費	166,172	151,306
賞与引当金の増減額(は減少)	5,018	40,823
退職給付引当金の増減額(は減少)	6,514	406,546
退職給付に係る負債の増減額(は減少)	-	411,727
受取利息及び受取配当金	2,885	3,167
支払利息	3,753	2,464
減損損失	-	287,911
売上債権の増減額(は増加)	165,054	438,321
たな卸資産の増減額(は増加)	64,144	47,888
仕入債務の増減額(は減少)	106,848	291,361
未払金の増減額(は減少)	23,798	5,576
その他	1,369	9,930
小計	460,543	209,405
利息及び配当金の受取額	2,820	3,224
利息の支払額	3,757	2,443
法人税等の支払額	181,397	81,407
長期預り金の返還による支払額	29,341	26,378
営業活動によるキャッシュ・フロー	248,868	102,400
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	60,551	117,537
有形固定資産の売却による収入	13,750	8,000
無形固定資産の取得による支出	10,572	13,593
投資有価証券の取得による支出	3,311	3,536
その他	1,220	-
投資活動によるキャッシュ・フロー	59,465	126,667
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(は減少)	10,000	50,000
リース債務の返済による支出	17,404	11,880
配当金の支払額	56,055	55,985
少数株主からの払込みによる収入	-	36,369
その他	0	-
財務活動によるキャッシュ・フロー	83,460	81,495
現金及び現金同等物に係る換算差額	2,141	666
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	108,084	106,428
現金及び現金同等物の期首残高	1,354,397	1,462,482
現金及び現金同等物の期末残高	1,462,482	1,356,053

【注記事項】

(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

1. 連結の範囲に関する事項

連結子会社の数

2社

連結子会社の名称

天津特電金属製品有限公司

TOKUDEN TOPAL CO., LTD.

(注) 当連結会計年度より、TOKUDEN TOPAL CO., LTD.を設立したため、連結の範囲に含めております。

2. 持分法の適用に関する事項

該当事項はありません。

3. 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社である天津特電金属製品有限公司及びTOKUDEN TOPAL CO., LTD.の決算日は12月31日でありますが、連結財務諸表作成にあたっては、連結決算日現在で実施した仮決算に基づく財務諸表を使用しております。

4. 会計処理基準に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

有価証券

その他有価証券

a. 時価のあるもの

決算日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)

b. 時価のないもの

移動平均法による原価法

たな卸資産

a. 商品及び製品、原材料及び仕掛品

主として総平均法による原価法(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)

b. 半成工事

個別法による原価法(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)

c. 貯蔵品

主として最終仕入原価法(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

有形固定資産(リース資産を除く)

当社は定率法を、在外子会社は定額法によっております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物及び構築物 10年から47年

機械装置及び運搬具 5年から10年

無形固定資産(リース資産を除く)

定額法によっております。

なお、自社利用のソフトウエアについては社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法によっております。

リース資産(所有権移転外ファイナンス・リース取引)

リース期間を耐用年数として、残存価額を零とする定額法によっております。

(3) 重要な引当金の計上基準

貸倒引当金

債権の貸倒による損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

賞与引当金

従業員に対する賞与支払に備えるため、賞与支給見込額のうち当連結会計年度負担額を計上しております。

工事損失引当金

工事損失の発生に備えるため、損失見込額を計上しております。

(4) 退職給付に係る会計処理の方法

退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当連結会計年度末までの期間に帰属させる方法については、期間定額基準によっております。

数理計算上の差異及び過去勤務費用の費用処理方法

過去勤務費用については、その発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（16年）による定額法により費用処理しております。

数理計算上の差異については、各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（11年）による定額法により按分した額をそれぞれ発生の翌連結会計年度から費用処理しております。

(5) 重要な収益及び費用の計上基準

完成工事高及び完成工事原価の計上基準

当連結会計年度末までの進捗部分について成果の確実性が認められる工事については工事進行基準（工事の進捗率の見積りは原価比例法）を、その他の工事については工事完成基準を適用しております。

(6) 重要な外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算の基準

在外子会社の資産及び負債は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、収益及び費用は期中平均相場により円貨に換算し、換算差額は純資産の部における為替換算調整勘定及び少数株主持分に含めて計上しております。

(7) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なりリスクか負わない取得日から3カ月以内に償還期限の到来する短期投資からなっております。

(8) その他連結財務諸表作成のための重要な事項

消費税等の会計処理

税抜方式によっております。

（会計方針の変更）

（退職給付に関する会計基準等の適用）

「退職給付に関する会計基準」（企業会計基準第26号 平成24年5月17日。以下「退職給付会計基準」という。）及び「退職給付に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第25号 平成24年5月17日。以下「退職給付適用指針」という。）を当連結会計年度末より適用し（ただし、退職給付会計基準第35項本文及び退職給付適用指針第67項本文に掲げられた定めを除く。）、退職給付債務から年金資産の額を控除した額を退職給付に係る負債として計上する方法に変更し、未認識数理計算上の差異及び未認識過去勤務費用を退職給付に係る負債に計上しております。

退職給付会計基準等の適用については、退職給付会計基準第37項に定める経過的な取扱いに従っており、当連結会計年度末において、当該変更に伴う影響額をその他の包括利益累計額の退職給付に係る調整累計額に加減しております。

この結果、当連結会計年度末において、退職給付に係る負債が474,889千円計上されるとともに、その他の包括利益累計額が40,802千円減少しております。

なお、1株当たり情報に与える影響額は、当該箇所に記載しております。

(未適用の会計基準等)

- ・「退職給付に関する会計基準」(企業会計基準第26号 平成24年5月17日)
- ・「退職給付に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第25号 平成24年5月17日)

(1) 概要

未認識数理計算上の差異及び未認識過去勤務費用の処理方法、退職給付債務及び勤務費用の計算方法並びに開示の拡充等について改正されました。

(2) 適用予定日

退職給付債務及び勤務費用の計算方法の改正については、平成27年3月期の期首から適用します。

なお、当該会計基準等には経過的な取扱いが定められているため、過去の期間の連結財務諸表に対しては遡及適用しません。

(3) 当該会計基準等の適用による影響

退職給付債務及び勤務費用の計算方法の改正による連結財務諸表に与える影響額については、現時点で評価中であり、あります。

(表示方法の変更)

(連結損益計算書)

前連結会計年度において、「営業外収益」の「その他」に表示していた「スクラップ売却益」は、営業外収益の総額の100分の10を超えたため、当連結会計年度より独立掲記することとしました。この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の連結財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前連結会計年度の連結損益計算書において、「営業外収益」の「その他」に表示していた8,741千円は、「スクラップ売却益」2,196千円、「その他」6,544千円として組み替えております。

(連結貸借対照表関係)

- 1 損失が見込まれる工事契約に係る半成工事と工事損失引当金は、相殺せずに両建てで表示しております。損失の発生が見込まれる工事契約に係る半成工事のうち、工事損失引当金に対応する額は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当連結会計年度 (平成26年3月31日)
半成工事	4,256千円	6,604千円

2 担保資産

担保に供している資産は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当連結会計年度 (平成26年3月31日)
建物及び構築物	101,552千円	93,868千円
土地	252,827	252,827
計	354,380	346,696

担保付債務は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当連結会計年度 (平成26年3月31日)
短期借入金	180,000千円	210,000千円

- 3 長期預り金は、ゴルフ場経営時に会員から預ったものであり、昭和53年4月の会社更生手続開始の認可を経て、会員の退会時に返還する預り金であります。

(連結損益計算書関係)

1 売上原価に含まれている工事損失引当金繰入額

	前連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)
	10,772千円	12,798千円

2 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)
給与及び手当	540,384千円	566,964千円
賞与引当金繰入額	57,124	79,429

3 一般管理費に含まれる研究開発費の総額

	前連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)
	57,389千円	57,824千円

4 固定資産売却益の内容は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)
機械装置及び運搬具	227千円	- 千円

5 固定資産売却損の内容は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)
その他	1千円	- 千円

6 固定資産除却損の内容は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)
建物及び構築物	228千円	201千円
機械装置及び運搬具	427	737
その他	202	156
無形固定資産	2,444	-
計	3,303	1,094

7 減損損失

前連結会計年度（自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日）

該当事項はありません。

当連結会計年度（自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日）

当社グループは以下の資産グループについて減損損失を計上しました。

場 所	用 途	種 類	減損損失
千葉県市川市	遊休資産	建物及び構築物、土地	3,141千円
中国天津市	工事施工用生産設備	建物及び構築物、機械装置及び運搬具、 建設仮勘定、その他	284,770千円

当社グループは、原則として事業本部を基礎として資産をグルーピングしております。なお連結子会社については、規模等を鑑み、会社単位を基礎として資産をグルーピングしております。将来の使用が見込まれない遊休資産は、個々の資産単位をグループとしております。

遊休資産のうち市川市内に所有する建物及び土地は、売却予定となったため帳簿価額を回収可能価額まで減額し、その差額を減損損失として計上いたしました。その内訳は、建物及び構築物2,377千円、土地764千円であります。回収可能価額は正味売却価額により測定しており、正味売却価額は売却予定価額に基づいて評価しております。なお、売却予定価額どおりに当該売却は完了しております。

中国天津市の工事施工用生産設備は、中国市場における工事施工用鋼板の販売状況を踏まえ、当該設備の回収可能性を検討した結果、その使用価値が帳簿価額を上回することは困難と判断し、当該差額を減損損失として計上いたしました。その内訳は、建物及び構築物40,519千円、機械装置及び運搬具126,721千円、建設仮勘定112,204千円、その他5,324千円であります。回収可能価額は使用価値と正味売却価額とを考慮したうえで、正味売却価額により測定しております。正味売却価額は転用や売却が困難であることから零として評価しております。

(連結包括利益計算書関係)

1 その他の包括利益に係る組替調整額

	前連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)
その他有価証券評価差額金：		
当期発生額	5,238千円	6,070千円
組替調整額	-	-
計	5,238	6,070
為替換算調整勘定：		
当期発生額	56,008	34,675
組替調整額	-	-
計	56,008	34,675
税効果調整前合計	61,246	40,746
税効果額	1,854	1,153
その他の包括利益合計	59,392	39,592

2 その他の包括利益に係る税効果額

	前連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)
その他有価証券評価差額金：		
税効果調整前	5,238千円	6,070千円
税効果額	1,854	1,153
税効果調整後	3,383	4,917
為替換算調整勘定：		
税効果調整前	56,008	34,675
税効果額	-	-
税効果調整後	56,008	34,675
その他の包括利益合計		
税効果調整前	61,246	40,746
税効果額	1,854	1,153
税効果調整後	59,392	39,592

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度期首 株式数(千株)	当連結会計年度増加 株式数(千株)	当連結会計年度減少 株式数(千株)	当連結会計年度末 株式数(千株)
発行済株式				
普通株式	8,010	-	-	8,010
合計	8,010	-	-	8,010
自己株式				
普通株式(注)	2	0	-	2
合計	2	0	-	2

(注) 普通株式の自己株式の株式数の増加0千株(1株)は、単元未満株式の買取りによる増加であります。

2. 新株予約権及び自己新株予約権に関する事項

該当事項はありません。

3. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当 額(円)	基準日	効力発生日
平成24年6月27日 定時株主総会	普通株式	28,027	3.50	平成24年3月31日	平成24年6月28日
平成24年10月22日 取締役会	普通株式	28,027	3.50	平成24年9月30日	平成24年12月7日

(2) 基準日が当期に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌期となるもの。

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	配当の原資	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日
平成25年6月26日 定時株主総会	普通株式	28,027	利益剰余金	3.50	平成25年3月31日	平成25年6月27日

当連結会計年度（自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日）

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度期首 株式数（千株）	当連結会計年度増加 株式数（千株）	当連結会計年度減少 株式数（千株）	当連結会計年度末 株式数（千株）
発行済株式				
普通株式	8,010	-	-	8,010
合計	8,010	-	-	8,010
自己株式				
普通株式	2	-	-	2
合計	2	-	-	2

2. 新株予約権及び自己新株予約権に関する事項

該当事項はありません。

3. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 （千円）	1株当たり配当 額（円）	基準日	効力発生日
平成25年6月26日 定時株主総会	普通株式	28,027	3.50	平成25年3月31日	平成25年6月27日
平成25年10月24日 取締役会	普通株式	28,027	3.50	平成25年9月30日	平成25年12月6日

(2) 基準日が当期に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌期となるもの。

決議	株式の種類	配当金の総額 （千円）	配当の原資	1株当たり配 当額（円）	基準日	効力発生日
平成26年6月25日 定時株主総会	普通株式	28,027	利益剰余金	3.50	平成26年3月31日	平成26年6月26日

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前連結会計年度 （自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日）	当連結会計年度 （自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日）
現金及び預金勘定	1,462,482千円	1,356,053千円
現金及び現金同等物	1,462,482	1,356,053

(リース取引関係)

ファイナンス・リース取引

所有権移転外ファイナンス・リース取引

リース資産の内容

(ア) 有形固定資産

主としてホストコンピュータ及びその周辺機器（その他）であります。

(イ) 無形固定資産

ソフトウェアであります。

リース資産の減価償却の方法

連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項「4. 会計処理基準に関する事項 (2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法」に記載のとおりであります。

(金融商品関係)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、資金運用等方針に従い、一時的な余資については安全性・流動性の高い金融資産で運用し、資金調達については短期的運転資金を銀行借入により調達しております。デリバティブは、現在利用しておりません。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク並びにリスク管理体制

営業債権である受取手形及び売掛金は、顧客の信用リスクに晒されています。当該リスクに関しては、当社の与信管理規程に従い、取引先毎個別に期日管理及び残高管理並びに与信管理を行うとともに、主な取引先の信用状況を毎期把握する体制としております。

投資有価証券である株式は、市場価格の変動リスクに晒されていますが、主に業務上の関係を有する取引先企業の株式等であり、原則として当該企業に係る持株会を通じて保有しており、売買により利益を得る目的では保有しておりません。また、定期的に把握された当該時価が、取締役会に報告されております。

営業債務である支払手形及び買掛金は、すべて1年以内の支払期日であります。

短期借入金は、主に営業取引に係る資金調達であります。変動金利の借入金は、金利の変動リスクに晒されていますが、すべて1年以内の短期借入金であり、個別契約ごとに、支払金利変動リスクを勘案しております。

また、営業債務や借入金は、流動性リスクに晒されていますが、当社では、資金繰計画を毎月作成するとともに、手許流動性の維持などの方法により流動性リスクを管理しております。

長期預り金は、過去に当社がゴルフ場経営を開始した際に募集した『福岡フェザントカントリークラブ』（現在の経営は株式会社アコーディアA H12）のゴルフ場入会預託金に対する当社の弁済債務であります。現在の経営先である株式会社アコーディアA H12が当該ゴルフ場の営業を断念した場合には、弁済債務の支払が一時的に集中する可能性があるため、流動性リスクに晒されております。当社の弁済方法は原則として債権者からの請求時（当該請求の属する会計年度の期末）から10年間の分割弁済であり、債務の各年度毎管理や資金繰管理により、当該リスクを管理しております。

(3) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、当該時価等を算定しておりません。

2. 金融商品の時価等に関する事項

連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりです。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表には含まれておりません。

前連結会計年度（平成25年3月31日）

	連結貸借対照表計上額 (千円)	時価(千円)	差額(千円)
(1) 現金及び預金	1,462,482	1,462,482	-
(2) 受取手形及び売掛金	2,303,393	2,303,393	-
(3) 投資有価証券 その他有価証券	59,838	59,838	-
資産計	3,825,713	3,825,713	-
(4) 支払手形及び買掛金	1,519,628	1,519,628	-
(5) 短期借入金	390,000	390,000	-
(6) 未払法人税等	35,553	35,553	-
(7) 長期預り金	351,828	333,936	17,891
負債計	2,297,010	2,279,119	17,891

当連結会計年度（平成26年3月31日）

	連結貸借対照表計上額 (千円)	時価(千円)	差額(千円)
(1) 現金及び預金	1,356,053	1,356,053	-
(2) 受取手形及び売掛金	2,742,441	2,742,441	-
(3) 投資有価証券 其他有価証券	69,446	69,446	-
資産計	4,167,940	4,167,941	-
(4) 支払手形及び買掛金	1,830,488	1,830,488	-
(5) 短期借入金	340,000	340,000	-
(6) 未払法人税等	126,123	126,123	-
(7) 長期預り金	327,889	309,658	18,231
負債計	2,624,501	2,606,270	18,231

(注1) 金融商品の時価の算定方法及び有価証券に関する事項

(1) 現金及び預金、並びに(2) 受取手形及び売掛金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(3) 投資有価証券

これらの時価について、株式等は取引所の価格によっております。保有目的ごとの有価証券に関する注記事項は、「有価証券関係」注記をご参照ください。

(4) 支払手形及び買掛金、並びに(6) 未払法人税等

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(5) 短期借入金

短期借入金は1年以内に決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(7) 長期預り金

長期預り金の時価は、合理的に見積りした支払予定時期に基づき、国債の利率で割り引いた現在価値によっております。

(注2) 非上場株式は、市場価格がなく、かつ将来キャッシュ・フローを見積ることなどができず、時価を把握することが極めて困難と認められるため、「(3) 投資有価証券 其他有価証券」には含めておりません。

時価を把握することが極めて困難と認められる非上場株式の連結貸借対照表計上額

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当連結会計年度 (平成26年3月31日)
非上場株式	1,000千円	1,000千円

(注3) 金銭債権及び満期のある有価証券の連結決算日後の償還予定額

前連結会計年度（平成25年3月31日）

	1年以内(千円)	1年超5年以内 (千円)	5年超(千円)
現金及び預金	1,462,482	-	-
受取手形及び売掛金	2,303,393	-	-
合計	3,765,875	-	-

当連結会計年度（平成26年3月31日）

	1年以内（千円）	1年超5年以内 （千円）	5年超（千円）
現金及び預金	1,356,053	-	-
受取手形及び売掛金	2,742,441	-	-
合 計	4,098,494	-	-

（有価証券関係）

1. その他有価証券

前連結会計年度（平成25年3月31日）

	種類	連結貸借対照表計上額 （千円）	取得原価（千円）	差額（千円）
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	(1) 株式	16,477	12,527	3,950
	(2) 債券	-	-	-
	(3) その他	-	-	-
	小計	16,477	12,527	3,950
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	(1) 株式	43,361	49,796	6,435
	(2) 債券	-	-	-
	(3) その他	-	-	-
	小計	43,361	49,796	6,435
合計		59,838	62,324	2,485

（注） 非上場株式（連結貸借対照表計上額1,000千円）については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

当連結会計年度（平成26年3月31日）

	種類	連結貸借対照表計上額 （千円）	取得原価（千円）	差額（千円）
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	(1) 株式	25,944	20,404	5,539
	(2) 債券	-	-	-
	(3) その他	-	-	-
	小計	25,944	20,404	5,539
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	(1) 株式	43,501	45,456	1,954
	(2) 債券	-	-	-
	(3) その他	-	-	-
	小計	43,501	45,456	1,954
合計		69,446	65,860	3,585

（注） 非上場株式（連結貸借対照表計上額1,000千円）については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

2. 売却したその他有価証券

前連結会計年度（自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日）

該当事項はありません。

当連結会計年度（自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日）

該当事項はありません。

(デリバティブ取引関係)

当社グループは、デリバティブ取引を利用していないため該当事項はありません。

(退職給付関係)

前連結会計年度(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)

1. 採用している退職給付制度の概要

当社は、確定給付型の制度として退職一時金制度、また確定拠出型の制度として確定拠出年金制度を設けております。なお、平成20年5月に、適格退職年金制度を確定拠出年金制度へ移行いたしました。

連結子会社については、退職金制度はありません。

2. 退職給付債務に関する事項

(1) 退職給付債務	471,705千円
(2) 未認識過去勤務債務	21,019
(3) 未認識数理計算上の差異	44,139
(4) 退職給付引当金 (1) - (2) - (3)	406,546

3. 退職給付費用に関する事項

(1) 勤務費用	24,867千円
(2) 利息費用	8,486
(3) 未認識過去勤務債務の費用処理額	1,910
(4) 数理計算上の差異の費用処理額	1,323
(5) 退職給付費用 (1) + (2) + (3) + (4)	36,588
(6) 確定拠出年金掛金	12,051
計	48,639

4. 退職給付債務等の計算の基礎に関する事項

(1) 退職給付見込額の期間配分方法

期間定額基準

(2) 割引率

1.1%

(3) 過去勤務債務の処理年数

16年(発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数による按分額を費用処理する方法)

(4) 数理計算上の差異の処理年数

11年(各連結会計年度の発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数による按分額をそれぞれ発生翌連結会計年度から費用処理する方法)

当連結会計年度(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)

1. 採用している退職給付制度の概要

当社は、従業員の退職給付に充てるため、非積立型の確定給付制度として退職一時金制度、また確定拠出型の制度として確定拠出年金制度を設けております。

連結子会社については、退職金制度はありません。

2. 確定給付制度

(1) 退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表

退職給付債務の期首残高	471,705千円
勤務費用	28,089
利息費用	5,188
数理計算上の差異の発生額	2,131
退職給付の支払額	32,225
退職給付債務の期末残高	474,889

(2) 退職給付債務の期末残高と連結貸借対照表に計上された退職給付に係る負債及び退職給付に係る資産の調整表

非積立型制度の退職給付債務	474,889
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	474,889
退職給付に係る負債	474,889
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	474,889

(3) 退職給付費用及びその内訳項目の金額

勤務費用	28,089千円
利息費用	5,188
過去勤務費用の費用処理額	1,910
数理計算上の差異の費用処理額	2,216
確定給付制度に係る退職給付費用	37,405

(4) 退職給付に係る調整累計額

退職給付に係る調整累計額に計上した項目（税効果控除前）の内訳は次のとおりであります。

未認識過去勤務費用	19,108千円
未認識数理計算上の差異	44,053
合計	63,162

(5) 数理計算上の計算基礎に関する事項

当連結会計年度末における主要な数理計算上の計算基礎

割引率 1.1%

3. 確定拠出制度

当社の確定拠出制度への要拠出額は、12,037千円であります。

(ストック・オプション等関係)

該当事項はありません。

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当連結会計年度 (平成26年3月31日)
繰延税金資産 (流動)		
未払事業税	4,572千円	9,820千円
賞与引当金	44,830	56,435
工事損失引当金	4,072	4,530
たな卸資産	17,246	14,712
未払費用	6,897	8,763
その他	1,201	1,298
計	78,820	95,560
繰延税金資産 (固定)		
建物	17,282	17,988
長期未払金	11,152	9,148
退職給付引当金	143,917	-
退職給付に係る負債	-	168,110
資産除去債務	11,644	11,644
減損損失	6,429	78,402
繰越欠損金	38,707	69,425
その他	9,157	9,097
小計	238,290	363,818
評価性引当額	62,025	164,782
計	176,265	199,036
繰延税金負債 (固定)		
土地建物圧縮積立金	56,974	52,194
その他有価証券評価差額金	-	273
計	56,974	52,468
繰延税金資産の純額	198,111	242,128

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当連結会計年度 (平成26年3月31日)
法定実効税率	37.8%	37.8%
(調整)		
海外子会社との税率差異	7.2	77.6
住民税均等割	4.1	9.0
交際費等永久差異項目	19.5	38.2
試験研究費等の税額控除	9.4	19.6
評価性引当額の増加	13.9	150.8
税率変更による期末繰延税金資産の減額修正	-	10.3
その他	0.6	0.2
税効果会計適用後の法人税等の負担率	73.7	228.7

3. 法人税等の税率の変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の金額の修正

「所得税法等の一部を改正する法律」(平成26年法律第10号)が平成26年3月31日に公布され、平成26年4月1日以後に開始する連結会計年度から復興特別法人税が課されないことになりました。これに伴い、繰延税金資産及び繰延税金負債の計算に使用する法定実効税率は、平成26年4月1日に開始する連結会計年度に解消が見込まれる一時差異については従来の37.8%から35.4%になります。

この税率変更により、繰延税金資産の金額は6,673千円減少し、法人税等調整額が同額増加しております。

(企業結合等関係)

該当事項はありません。

(賃貸等不動産関係)

当社グループは、愛知県その他の地域において、賃貸用の土地等(遊休資産を含む)を有しております。平成26年3月期における当該賃貸等不動産に関する賃貸損益は1,962千円(賃貸収益は営業外収益に、賃貸費用は営業外費用に計上)であります。

また、当該賃貸等不動産の連結貸借対照表計上額、期中増減額及び時価は、次のとおりであります。

(単位:千円)

		前連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)
連結貸借対照表計上額	期首残高	73,292	60,225
	期中増減額	13,066	164
	期末残高	60,225	60,060
期末時価		119,392	123,748

- (注) 1. 連結貸借対照表計上額は、取得原価から減価償却累計額及び減損損失累計額を控除した金額であります。
 2. 期中増減額のうち、前連結会計年度の主な減少額は遊休資産の売却(12,857千円)であります。当連結会計年度の主な減少額は、減価償却(164千円)であります。
 3. 当連結会計年度末の時価は、土地については適切に市場価格を反映していると考えられる指標に基づいて自社で算定した金額であり、建物及び構築物である償却性資産は帳簿価額であります。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1. 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社は金属の溶接分野における総合的な技術力に基づいて、溶接材料の開発・製造・販売を行うと共に、溶接技術を生かした各種溶接施工及びトッププレート(耐摩耗用クラッド鋼板)を用いた工事施工の事業を行っており、「工事施工事業」及び「溶接材料事業」の2つを報告セグメントとしております。

「工事施工事業」では、当社の溶接技術により、各種産業における生産設備、装置の部分品の製作、補修、再生等を行っております。また、「溶接材料事業」では、溶接材料の仕入・製造・販売を行っております。

2. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載と概ね同一であります。

報告セグメントの利益は、営業利益ベースの数値であります。

セグメント間の振替高は実際原価に基づいております。

3. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産その他の項目の金額に関する情報

前連結会計年度(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)

(単位:千円)

	報告セグメント			その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	連結財務諸 表計上額 (注)3
	工事施工	溶接材料	計				
売上高							
外部顧客への売上高	5,209,157	1,448,521	6,657,678	827,932	7,485,611	-	7,485,611
セグメント間の振替高	-	308,106	308,106	73,555	381,661	381,661	-
計	5,209,157	1,756,627	6,965,785	901,488	7,867,273	381,661	7,485,611
セグメント利益	383,373	254,119	637,492	73,945	711,438	586,329	125,109
セグメント資産	3,368,066	851,102	4,219,169	343,993	4,563,162	1,955,481	6,518,643
その他の項目							
減価償却費	100,064	22,746	122,811	1,350	124,161	42,011	166,172
有形固定資産及び無形 固定資産の増加額	91,572	5,507	97,079	532	97,611	20,986	118,598

- (注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、主に環境関連装置及び自動車産業向けのアルミダイカストマシン用部品の販売であります。
2. 調整額は以下のとおりであります。
- (1) セグメント利益の調整額は、各報告セグメントに配分していない全社費用（主に報告セグメントに帰属しない一般管理費及び技術試験費）であります。
- (2) セグメント資産の調整額は、各報告セグメントに配分していない全社資産（主に本社の現金・預金）であります。
- (3) 減価償却費の調整額は、各報告セグメントに配分していない管理部門の減価償却費（主にソフトウェアの減価償却費）であります。
3. セグメント利益は、連結財務諸表の営業利益と調整を行っております。

当連結会計年度（自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日）

(単位：千円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	連結財務諸 表計上額 (注) 3
	工事施工	溶接材料	計				
売上高							
外部顧客への売上高	5,521,562	1,496,824	7,018,386	812,442	7,830,829	-	7,830,829
セグメント間の振替高	-	332,698	332,698	75,180	407,879	407,879	-
計	5,521,562	1,829,522	7,351,085	887,623	8,238,708	407,879	7,830,829
セグメント利益	450,894	277,618	728,513	83,160	811,673	601,262	210,410
セグメント資産	3,450,237	924,035	4,374,273	479,776	4,854,049	1,915,531	6,769,580
その他の項目							
減価償却費	104,126	19,462	123,589	2,207	125,797	25,509	151,306
有形固定資産及び無形 固定資産の増加額	123,340	11,363	134,704	20,394	155,099	82,044	237,143

- (注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、主に環境関連装置及び自動車産業向けのアルミダイカストマシン用部品の販売であります。
2. 調整額は以下のとおりであります。
- (1) セグメント利益の調整額は、各報告セグメントに配分していない全社費用（主に報告セグメントに帰属しない一般管理費及び技術試験費）であります。
- (2) セグメント資産の調整額は、各報告セグメントに配分していない全社資産（主に本社の現金・預金）であります。
- (3) 減価償却費の調整額は、各報告セグメントに配分していない管理部門の減価償却費（主にソフトウェアの減価償却費）であります。
3. セグメント利益は、連結財務諸表の営業利益と調整を行っております。

【関連情報】

前連結会計年度（自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日）

1. 製品及びサービスごとの情報

(単位：千円)

	一般工事	トッププレート	その他	合計
外部顧客への売上高	4,472,529	736,627	2,276,454	7,485,611

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

(単位：千円)

日本	中国	合計
1,121,173	277,875	1,399,048

3. 主要な顧客ごとの情報

(単位：千円)

顧客の名称又は氏名	売上高	関連するセグメント名
新日鐵住金株式会社	1,091,900	工事施工、溶接材料

(注) 新日本製鐵株式会社と住友金属工業株式会社は平成24年10月1日付で合併し、新日鐵住金株式会社となりました。上記の新日鐵住金株式会社の売上高には、平成24年4月1日から平成24年9月30日までの期間の新日本製鐵株式会社としての取引金額を含めております。

当連結会計年度(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)

1. 製品及びサービスごとの情報

(単位：千円)

	一般工事	トッププレート	その他	合計
外部顧客への売上高	4,708,565	812,996	2,309,267	7,830,829

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が連結貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

3. 主要な顧客ごとの情報

(単位：千円)

顧客の名称又は氏名	売上高	関連するセグメント名
新日鐵住金株式会社	1,317,445	工事施工、溶接材料

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

前連結会計年度(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)

(単位：千円)

	工事施工	溶接材料	その他	全社・消去	合計
減損損失	284,770	-	-	-	287,911

(注) 「全社・消去」の金額は、セグメントに帰属しない遊休資産に係る減損損失であります。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

該当事項はありません。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

該当事項はありません。

【関連当事者情報】

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

	前連結会計年度 (自 平成24年 4月 1日 至 平成25年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成25年 4月 1日 至 平成26年 3月31日)
1株当たり純資産額	425.15円	391.73円
1株当たり当期純利益金額又は 1株当たり当期純損失金額 ()	4.88円	26.34円

- (注) 1. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
 2. 退職給付に関する会計基準等の適用(会計方針の変更)に記載のとおり、退職給付会計基準等を適用しております。この結果、当連結会計年度の1株当たり純資産額が、5.10円減少しております。
 3. 1株当たり当期純利益金額又は1株当たり当期純損失金額()の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成24年 4月 1日 至 平成25年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成25年 4月 1日 至 平成26年 3月31日)
当期純利益又は当期純損失 ()(千円)	39,049	210,904
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る当期純利益又は普通株式に係る 当期純損失 ()(千円)	39,049	210,904
期中平均株式数(千株)	8,007	8,007

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【連結附属明細表】

【社債明細表】

該当事項はありません。

【借入金等明細表】

区分	当期首残高 (千円)	当期末残高 (千円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	390,000	340,000	0.34	-
1年以内に返済予定の長期借入金	-	-	-	-
1年以内に返済予定のリース債務	-	11,880	-	-
長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く。)	-	-	-	-
リース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)	-	43,560	-	平成30年
その他有利子負債	-	-	-	-
計	390,000	395,440	-	-

- (注) 1. 平均利率は、期末借入金残高に対する加重平均利率を記載しております。
 2. リース債務の平均利率については、リース料総額に含まれる利息相当額を定額法により各連結会計年度に配分しているため記載しておりません。
 3. リース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)の決算日後5年間の返済予定額は以下のとおりであります。

(千円)

	1年超2年以内	2年超3年以内	3年超4年以内	4年超5年以内
リース債務	11,880	11,880	11,880	7,919

【資産除去債務明細表】

当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における資産除去債務の金額が、当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における負債及び純資産の合計額の100分の1以下であるため、連結財務諸表規則第92条の2の規定により記載を省略しております。

(2) 【その他】

当連結会計年度における四半期情報等

(累計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	当連結会計年度
売上高(千円)	1,945,229	3,707,522	5,687,486	7,830,829
税金等調整前四半期純利益金額又は税金等調整前当期純損失金額()(千円)	54,433	81,211	148,223	64,757
四半期純利益金額又は当期純損失金額()(千円)	19,767	21,672	45,228	210,904
1株当たり四半期純利益金額又は当期純損失金額()(円)	2.47	2.71	5.65	26.34

(会計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額()(円)	2.47	0.24	2.94	31.99

2【財務諸表等】

(1)【財務諸表】

【貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (平成25年3月31日)	当事業年度 (平成26年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,407,516	1,274,438
受取手形	477,401	560,288
売掛金	1,818,991	2,168,361
商品及び製品	541,037	512,965
仕掛品	18,962	28,355
半成工事	268,776	334,208
原材料及び貯蔵品	65,752	80,027
繰延税金資産	78,820	95,423
関係会社貸付金	-	50,000
その他	1,309,910	1,275,530
貸倒引当金	41	41
流動資産合計	4,708,128	5,131,559
固定資産		
有形固定資産		
建物	2,326,770	2,347,048
構築物	8,635	7,214
機械及び装置	287,516	292,588
車両運搬具	3,229	1,995
工具、器具及び備品	19,332	17,171
土地	2,474,929	2,468,129
リース資産	-	6,809
建設仮勘定	759	2,063
有形固定資産合計	1,121,173	1,143,022
無形固定資産		
特許権	109	-
ソフトウェア	14,559	19,289
リース資産	-	48,630
電話加入権	7,780	7,780
無形固定資産合計	22,449	75,700
投資その他の資産		
投資有価証券	60,838	70,446
関係会社株式	-	35,500
出資金	3,240	3,240
関係会社出資金	480,000	71,626
繰延税金資産	119,291	124,208
その他	42,726	40,585
投資その他の資産合計	706,096	345,606
固定資産合計	1,849,719	1,564,329
資産合計	6,557,847	6,695,889

(単位：千円)

	前事業年度 (平成25年3月31日)	当事業年度 (平成26年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形	1,135,525	1,301,569
買掛金	380,786	528,452
短期借入金	2 390,000	2 340,000
リース債務	-	11,880
未払金	85,018	101,868
未払費用	66,524	60,974
未払法人税等	35,553	126,123
預り金	47,402	28,683
賞与引当金	118,599	159,423
工事損失引当金	10,772	12,798
その他	3,295	1,623
流動負債合計	2,273,479	2,673,396
固定負債		
リース債務	-	43,560
退職給付引当金	406,546	411,727
長期預り金	3 351,828	3 327,889
その他	63,821	58,737
固定負債合計	822,196	841,914
負債合計	3,095,675	3,515,310
純資産の部		
株主資本		
資本金	484,812	484,812
資本剰余金		
資本準備金	394,812	394,812
資本剰余金合計	394,812	394,812
利益剰余金		
利益準備金	12,260	12,260
その他利益剰余金		
土地圧縮積立金	58,534	55,117
建物圧縮積立金	45,436	40,129
別途積立金	2,160,000	2,160,000
繰越利益剰余金	308,301	30,514
利益剰余金合計	2,584,532	2,298,022
自己株式	379	379
株主資本合計	3,463,777	3,177,267
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	1,605	3,311
評価・換算差額等合計	1,605	3,311
純資産合計	3,462,171	3,180,578
負債純資産合計	6,557,847	6,695,889

【損益計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	当事業年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)
売上高	1 7,466,772	1 7,774,945
売上原価	5,629,141	1 5,781,746
売上総利益	1,837,631	1,993,198
販売費及び一般管理費	2 1,632,447	2 1,680,227
営業利益	205,183	312,971
営業外収益		
受取利息及び配当金	2,854	1 3,360
雇用安定助成金	18,663	5,989
スクラップ売却益	2,196	3,010
駐車場収入	3,001	2,943
その他	6,088	5,460
営業外収益合計	32,805	20,764
営業外費用		
支払利息	3,753	2,464
駐車場収入原価	1,026	981
その他	-	45
営業外費用合計	4,780	3,491
経常利益	233,208	330,244
特別利益		
固定資産売却益	3 227	-
特別利益合計	227	-
特別損失		
固定資産売却損	4 1	-
固定資産除却損	5 3,303	5 1,094
減損損失	-	3,141
関係会社出資金評価損	-	408,373
特別損失合計	3,305	412,609
税引前当期純利益又は税引前当期純損失()	230,130	82,365
法人税、住民税及び事業税	106,755	170,763
法人税等調整額	1,708	22,673
法人税等合計	108,463	148,089
当期純利益又は当期純損失()	121,666	230,454

【株主資本等変動計算書】

前事業年度（自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日）

(単位：千円)

	株主資本							
	資本金	資本剰余金		利益剰余金				利益剰余金合計
		資本準備金	利益準備金	その他利益剰余金				
			土地圧縮積立金	建物圧縮積立金	別途積立金	繰越利益剰余金		
当期首残高	484,812	394,812	12,260	65,316	53,459	2,160,000	227,885	2,518,921
当期変動額								
土地圧縮積立金の取崩	-	-	-	6,782	-	-	6,782	-
建物圧縮積立金の取崩	-	-	-	-	8,022	-	8,022	-
剰余金の配当	-	-	-	-	-	-	56,055	56,055
当期純利益	-	-	-	-	-	-	121,666	121,666
自己株式の取得	-	-	-	-	-	-	-	-
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	-	-	-	-	-	-	-	-
当期変動額合計	-	-	-	6,782	8,022	-	80,416	65,610
当期末残高	484,812	394,812	12,260	58,534	45,436	2,160,000	308,301	2,584,532

	株主資本		評価・換算差額等	純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	
当期首残高	379	3,398,167	4,989	3,393,177
当期変動額				
土地圧縮積立金の取崩	-	-	-	-
建物圧縮積立金の取崩	-	-	-	-
剰余金の配当	-	56,055	-	56,055
当期純利益	-	121,666	-	121,666
自己株式の取得	0	0	-	0
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	-	-	3,383	3,383
当期変動額合計	0	65,610	3,383	68,994
当期末残高	379	3,463,777	1,605	3,462,171

当事業年度（自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日）

(単位：千円)

	株主資本								
	資本金	資本剰余金	利益剰余金						利益剰余金 合計
		資本準備金	利益準備金	その他利益剰余金					
				土地圧縮積 立金	建物圧縮積 立金	別途積立金	繰越利益剰 余金		
当期首残高	484,812	394,812	12,260	58,534	45,436	2,160,000	308,301	2,584,532	
当期変動額									
土地圧縮積立金の取崩	-	-	-	3,416	-	-	3,416	-	
建物圧縮積立金の取崩	-	-	-	-	5,306	-	5,306	-	
剰余金の配当	-	-	-	-	-	-	56,055	56,055	
当期純損失（ ）	-	-	-	-	-	-	230,454	230,454	
株主資本以外の項目の当期変動 額（純額）	-	-	-	-	-	-	-	-	
当期変動額合計	-	-	-	3,416	5,306	-	277,787	286,510	
当期末残高	484,812	394,812	12,260	55,117	40,129	2,160,000	30,514	2,298,022	

	株主資本		評価・換算 差額等	純資産合計
	自己株式	株主資本合 計	その他有価 証券評価差 額金	
当期首残高	379	3,463,777	1,605	3,462,171
当期変動額				
土地圧縮積立金の取崩	-	-	-	-
建物圧縮積立金の取崩	-	-	-	-
剰余金の配当	-	56,055	-	56,055
当期純損失（ ）	-	230,454	-	230,454
株主資本以外の項目の当期変動 額（純額）	-	-	4,917	4,917
当期変動額合計	-	286,510	4,917	281,593
当期末残高	379	3,177,267	3,311	3,180,578

【注記事項】

(重要な会計方針)

1. 資産の評価基準及び評価方法

(1) 有価証券の評価基準及び評価方法

その他有価証券

市場価格のあるもの.....決算日の市場価格に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)

市場価格のないもの.....移動平均法による原価法

(2) たな卸資産の評価基準及び評価方法

商品及び製品、原材料及び仕掛品.....総平均法による原価法(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)

半成工事.....個別法による原価法(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)

貯蔵品.....最終仕入原価法(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)

2. 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産(リース資産を除く)

定率法によっております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物 22年~47年

機械及び装置 10年

(2) 無形固定資産(リース資産を除く)

定額法を採用しております。

なお、自社利用のソフトウェアについては社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法によっております。

(3) リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価格を零とする定額法によっております。

(4) 長期前払費用

均等償却によっております。

3. 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

債権の貸倒による損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

(2) 賞与引当金

従業員に対する賞与の支払に備えるため、賞与支給見込額のうち当事業年度負担額を計上しております。

(3) 工事損失引当金

工事損失の発生に備えるため、損失見込額を計上しております。

(4) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務の見込額に基づき計上しております。なお、過去勤務費用は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(16年)による定額法により按分した額を、費用処理しております。数理計算上の差異は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(11年)による定額法により按分した額を、それぞれ発生の翌事業年度から費用処理することとしております。

4. 完成工事高及び完成工事原価の計上基準

当事業年度末までの進捗部分について成果の確実性が認められる工事については工事進行基準(工事の進捗率の見積りは原価比例法)を、その他の工事については工事完成基準を適用しております。

5. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

(1) 退職給付に係る会計処理

退職給付に係る未認識数理計算上の差異及び未認識過去勤務費用の未処理額の会計処理の方法は、連結財務諸表におけるこれらの会計処理の方法と異なっております。

(2) 消費税等の会計処理

税抜方式によっております。

(表示方法の変更)

貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、有形固定資産等明細表、引当金明細表については、財務諸表等規則第127条第1項に定める様式に基づいて作成しております。

また、財務諸表等規則第127条第2項に掲げる各号の注記については、各号の会社計算規則に掲げる事項の注記に変更しております。

以下の事項について、記載を省略しております。

- ・財務諸表等規則第75条に定める製造原価明細書及び工事原価明細書については、同条第2項ただし書きにより、記載を省略しております。
- ・財務諸表等規則第54条の4に定めるたな卸資産及び工事損失引当金の表示については、同条第4項により、記載を省略しております。
- ・財務諸表等規則第76条の2に定める工事損失引当金繰入額の注記については、同条第2項により、記載を省略しております。
- ・財務諸表等規則第86条に定める研究開発費の注記については、同条第2項により、記載を省略しております。
- ・財務諸表等規則第95条の3の2に定める減損損失の注記については、同条第2項により、記載を省略しております。
- ・財務諸表等規則第107条に定める自己株式に関する注記については、同条第2項により、記載を省略しております。
- ・財務諸表等規則第8条の6に定めるリース取引に関する注記については、同条第4項により、記載を省略しております。
- ・財務諸表等規則第68条の4に定める1株当たり純資産額の注記については、同条第3項により、記載を省略しております。
- ・財務諸表等規則第95条の5の2に定める1株当たり当期純損益金額に関する注記については、同条第3項により、記載を省略しております。
- ・財務諸表等規則第121条第1項第1号に定める有価証券明細表については、同条第3項により、記載を省略しております。

(貸借対照表関係)

1 関係会社に対する金銭債権(区分表示したものを除く)

	前事業年度 (平成25年3月31日)	当事業年度 (平成26年3月31日)
短期金銭債権	956千円	2,302千円

2 担保に供している資産及び担保に係る債務

担保に供している資産

	前事業年度 (平成25年3月31日)	当事業年度 (平成26年3月31日)
建物	101,552千円	93,868千円
土地	252,827	252,827
計	354,380	346,696

担保に係る債務

	前事業年度 (平成25年3月31日)	当事業年度 (平成26年3月31日)
短期借入金	180,000千円	210,000千円

3 長期預り金は、ゴルフ場経営時に会員から預ったものであり、昭和53年4月の会社更生手続開始の認可を経て、会員の退会時に返還する預り金であります。

(損益計算書関係)

1 関係会社との取引高

	前事業年度 (自 平成24年 4月 1日 至 平成25年 3月31日)	当事業年度 (自 平成25年 4月 1日 至 平成26年 3月31日)
営業取引による取引高		
売上高	6,852千円	1,418千円
仕入高	-	2,382
営業取引以外の取引による取引高	-	246

2 販売費に属する費用のおおよその割合は前事業年度64%、当事業年度64%、一般管理費に属する費用のおおよその割合は前事業年度36%、当事業年度36%であります。

販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成24年 4月 1日 至 平成25年 3月31日)	当事業年度 (自 平成25年 4月 1日 至 平成26年 3月31日)
役員報酬	104,772千円	101,647千円
給料及び手当	531,928	552,239
賞与引当金繰入額	57,124	79,429
法定福利費	104,015	112,283

3 固定資産売却益の内容は次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成24年 4月 1日 至 平成25年 3月31日)	当事業年度 (自 平成25年 4月 1日 至 平成26年 3月31日)
車両運搬具	227千円	- 千円

4 固定資産売却損の内容は次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成24年 4月 1日 至 平成25年 3月31日)	当事業年度 (自 平成25年 4月 1日 至 平成26年 3月31日)
工具、器具及び備品	1千円	- 千円

5 固定資産除却損の内容は次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成24年 4月 1日 至 平成25年 3月31日)	当事業年度 (自 平成25年 4月 1日 至 平成26年 3月31日)
建物	228千円	201千円
機械及び装置	136	737
車両運搬具	291	-
工具、器具及び備品	202	156
ソフトウェア	2,444	-
計	3,303	1,094

(有価証券関係)

関係会社株式は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載しておりません。

時価を把握することが極めて困難と認められる関係会社株式の貸借対照表計上額

	前事業年度 (平成25年 3月31日)	当事業年度 (平成26年 3月31日)
関係会社株式	- 千円	35,500千円

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (平成25年3月31日)	当事業年度 (平成26年3月31日)
繰延税金資産(流動)		
未払事業税	4,572千円	9,820千円
賞与引当金	44,830	56,435
工事損失引当金	4,072	4,530
たな卸資産	17,246	14,574
未払費用	6,897	8,763
その他	1,201	1,298
計	78,820	95,423
繰延税金資産(固定)		
建物	17,282	17,988
長期未払金	11,152	9,148
退職給付引当金	143,917	145,751
資産除去債務	11,644	11,644
減損損失	6,429	6,429
関係会社出資金評価損	-	144,564
その他	9,157	9,097
小計	199,583	344,624
評価性引当額	23,318	167,948
計	176,265	176,676
繰延税金負債(固定)		
土地建物圧縮積立金	56,974	52,194
その他有価証券評価差額金	-	273
計	56,974	52,468
繰延税金資産の純額	198,111	219,631

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前事業年度 (平成25年3月31日)	当事業年度 (平成26年3月31日)
法定実効税率	37.8%	37.8%
(調整)		
住民税均等割	2.6	7.1
交際費等永久差異項目	12.4	30.0
試験研究費等の税額控除	6.0	15.4
評価性引当額の増加	-	187.5
税率変更による期末繰延税金資産の減額修正	-	8.1
その他	0.3	0.3
税効果会計適用後の法人税等の負担率	47.1	179.8

3. 法人税等の税率の変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の金額の修正

「所得税法等の一部を改正する法律」(平成26年法律第10号)が平成26年3月31日に公布され、平成26年4月1日以後に開始する事業年度から復興特別法人税が課されないことになりました。これに伴い、繰延税金資産及び繰延税金負債の計算に使用する法定実効税率は、平成26年4月1日に開始する事業年度に解消が見込まれる一時差異については従来の37.8%から35.4%になります。

この税率変更により、繰延税金資産の金額は6,673千円減少し、法人税等調整額が同額増加しております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【附属明細表】

【有形固定資産等明細表】

(単位：千円)

区分	資産の種類	当期首残高	当期増加額	当期減少額	当期償却額	当期末残高	減価償却累計額
有形固定資産	建物	326,770	54,508	4,542 (2,377)	29,687	347,048	802,152
	構築物	8,635	-	-	1,420	7,214	27,936
	機械及び装置	287,516	75,856	737	70,048	292,588	1,767,677
	車両運搬具	3,229	-	-	1,233	1,995	90,029
	工具、器具及び備品	19,332	5,240	156	7,245	17,171	115,174
	土地	474,929	-	6,800 (764)	-	468,129	-
	リース資産	-	8,269	-	1,459	6,809	1,459
	建設仮勘定	759	136,911	135,606	-	2,063	-
	計	1,121,173	280,787	147,842 (3,141)	111,095	1,143,022	2,804,429
無形固定資産	特許権	109	-	-	109	-	952
	ソフトウェア	14,559	13,593	-	8,862	19,289	102,427
	リース資産	-	59,050	-	10,420	48,630	10,420
	電話加入権	7,780	-	-	-	7,780	-
	計	22,449	72,643	-	19,392	75,700	113,800

(注) 1. 当期増加額のうち主なものは次のとおりであります。

機械及び装置 室蘭工場 ツイスタープラズマ切断加工機 24,844千円

2. 「当期減少額」欄の()内は内書で、減損損失の計上額であります。

【引当金明細表】

(単位：千円)

科目	当期首残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
貸倒引当金	41	41	41	41
賞与引当金	118,599	159,423	118,599	159,423
工事損失引当金	10,772	12,798	10,772	12,798

(2) 【主な資産及び負債の内容】

連結財務諸表を作成しているため、記載を省略しております。

(3) 【その他】

該当事項はありません。

第6【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	4月1日から3月31日まで
定時株主総会	6月中
基準日	3月31日
剰余金の配当の基準日	9月30日 3月31日
1単元の株式数	1,000株
単元未満株式の買取り	
取扱場所	(特別口座) 大阪市中央区北浜四丁目5番33号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
株主名簿管理人	(特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
取次所	
買取手数料	株式の売買の委託に係る手数料相当額として別途定める金額
公告掲載方法	電子公告とし、当社ホームページ(http://www.tokuden.co.jp)に掲載して行う。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告ができない場合は、日本経済新聞に掲載して行う。
株主に対する特典	該当事項はありません。

(注) 当社定款の定めにより、単元未満株主は、会社法第189条第2項各号に掲げる権利、会社法第166条第1項の規定による請求をする権利並びに株主の有する株式数に応じて募集株式の割当て及び募集新株予約権の割当てを受ける権利以外の権利を有しておりません。

第7【提出会社の参考情報】

1【提出会社の親会社等の情報】

当社は、金融商品取引法第24条の7第1項に規定する親会社等はありません。

2【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

- (1) 有価証券報告書及びその添付書類並びに確認書
事業年度（第66期）（自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日）平成25年6月27日近畿財務局長に提出
- (2) 内部統制報告書及びその添付書類
平成25年6月27日近畿財務局長に提出
- (3) 四半期報告書及び確認書
（第67期第1四半期）（自 平成25年4月1日 至 平成25年6月30日）平成25年8月9日近畿財務局長に提出
（第67期第2四半期）（自 平成25年7月1日 至 平成25年9月30日）平成25年11月14日近畿財務局長に提出
（第67期第3四半期）（自 平成25年10月1日 至 平成25年12月31日）平成26年2月14日近畿財務局長に提出
- (4) 臨時報告書
平成25年6月28日近畿財務局長に提出
金融商品取引法第24条の5第4項及び企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の2に基づく臨時報告書であります。
平成25年12月18日近畿財務局長に提出
金融商品取引法第24条の5第4項及び企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第3号に基づく臨時報告書であります。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

平成26年6月12日

特殊電極株式会社

取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 木村 文彦 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 岡本 健一郎 印

<財務諸表監査>

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている特殊電極株式会社の平成25年4月1日から平成26年3月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、連結財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による連結財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、連結財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、特殊電極株式会社及び連結子会社の平成26年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

< 内部統制監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、特殊電極株式会社の平成26年3月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。

内部統制報告書に対する経営者の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した内部統制監査に基づいて、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき内部統制監査を実施することを求めている。

内部統制監査においては、内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための手続が実施される。内部統制監査の監査手続は、当監査法人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。また、内部統制監査には、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、特殊電極株式会社が平成26年3月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1 . 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。

2 . X B R L データは監査の対象には含まれていません。

独立監査人の監査報告書

平成26年 6月12日

特殊電極株式会社

取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 木村 文彦 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 岡本 健一郎 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている特殊電極株式会社の平成25年4月1日から平成26年3月31日までの第67期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、特殊電極株式会社の平成26年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- (注) 1. 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。
2. XBR Lデータは監査の対象には含まれていません。